

# PUBLIC OPINION

座談會

時局問題の核心を衝く

新聞人の縦横座談會

朝日新聞 讀賣新聞 共同通信 新經濟 共同通信 日本經濟 每日新聞 柴田敏夫 增山太 奧村保通 金久仁雄 姉齒嘉仁 明峰嘉夫 武藤明勝 矢部勝正 岩部信正

# 日本輿論

資本論 人民講座 丘大夢

長篇小説

新風 大庭さち子

## 1946 五月號

# 歴史的現實を把握せよ

## — 科學的な立場へ —

敵を知り己を知らば百戰百勝であり、敵を知らず己を知らざれば百戰殆んど危うし、とは東洋最古の兵書たる孫子の兵法であり、戦ひのABCである。しかも日本の官僚、軍閥、重臣、財閥、寄生的大土地所有者たち一國の支配者は、天皇制の支持者として、この初歩の知識さへ認識しないで敗戦し、日本全民衆をこの塗炭の苦しみのうちに陥れてしまつた。しかも彼らの態度はどうだ。敗戦の事實を摺ひかくし、聯合軍の背後の協力を有してゐるマ司令部の監視をも胡麻化さうとし、何とかして、舊るい勢力を維持しようと思慮してゐるのだ。國民大衆も知らず知らず敗戦の事實に眼を閉ち頬かむりで切り抜けようとしてゐる。

「ガダルカナルの轉進」にはじまつた事實の歪曲。「轉進」とは何だ。「退却」のことだ。「八月十五日の終戦」といふ。終戦にあらずして、これは「敗戦」である。「ポツダム宣言の受諾」といふ。受諾は真正正銘の「無條件降服」ではないか。「進駐軍」と云ふも事實は occupation troops であり、「占領軍」ではないか。ポツダム宣言に對して「國體維持」云々のとき、「天皇及び日本國政府の國家統治の權限」は聯合軍最高司令官の「制限の下に置かるゝ」ものとするといふ日本譯で公表した。「制限の下に置かるゝ」とは英語のままに正しく言へば、日本の天皇と政府は聯合軍司令官に *subjected* することなのだ。すなはち「從屬することなのだ。これを正直に譯出しないで、敗戦の事實を歪曲して自慰を求め、自らも自慰しようとしてゐるのである。昨春秋、天皇陛下がマツクアーサー總司令部を訪問あらせられたといふ記事が出た。一八七一年の普佛戦争でナポレオン三世がビスマルクにセダンにおいて最後に敗れ、敗戦主將としてビスマルクの陣營に呼びつけられたことと、一体どこに差異があるのか。これはビスマルクをナポレオン三世が訪問したのか。否、否である。

「日本政府が輸入についてマ司令部に交渉中」云々につき、米國宣傳對策局民間檢閲主任フーヴァー大佐は聲明した。日本は敗北した敵だ。米國に交渉し交渉される何もものもない。「交渉」とは平等の國家間のことだ。聯合軍はたゞ日本政府に命令するだけであると。尤のことだ。

日本の支配者は、あらゆる点で敗戦屈服の事實を胡麻化し覆ひかくし、負け惜しみをし、國民に歴史的現實を歪曲せしめつつある。われわれは、先づ敗戦を正しく認識し、あくまで科學的に、すなはち、第一に實證的に、歴史的現實を把握し、第二に理論的に、問題を展開しつつ進んで行かうではないか。古人もいふ。「格物致知」と。これこそ正しい唯物論的立場であり、胡麻化しや自慰や負け惜しみを排除して新しく立ち上る立場である。歴史的現實に對する科學的把握こそ、やがて日本全大衆をして、内に民主主義の樹立と外に世界平和への協力の熱意も理想も潑刺と湧出せしめるのだ。これは國民大衆の進むべき唯一光榮の道である。(住谷悦治)



カット・棟方斎伯

日本輿論 五月號 第三卷 第五號

目次

輿論調査發表……………(三)

人聞新  
—座談會—  
時局問題の  
核心を衝く  
朝日 柴田 敏夫 共同 明峰 嘉夫  
讀賣 增山 太助 通平 武藤 明正  
同 奧村 隆 日本 矢加部 勝美  
同 金久保 通雄 毎日 同 崑 信正  
新 姉齒 仁郎 同 崑 信正  
濟 經 同 崑 信正

財産税に關する政府案と  
經濟の民主化について 齊藤 榮 治(三)

道義世界の創建……………岡田 正 三(八)

無政府主義小見……………白 井 新 平(五)

資本論 人民講座(1)……………丘 大 夢(三)

日本農村改革問答……………安堂 流 瀾(五)

※經濟時評……………白 神 勳(二七)  
※併 旬……………鈴鹿野風(四七)  
※輿論調査……………(四)  
※家庭園藝……………伊藤庄次郎(四八)

小説  
新 寒太郎日記(1)……………尾山城太郎(四)  
風(1)……………大庭さち子(四)

# 國民はこれらの問題を

## 如何に觀、如何に考へてゐるか

### 國民の偽らざる聲に聽く

#### ◇食糧自給の見込があるか

- 一、見込なし 七〇六(五〇・九%)  
この理由として意見を附したるもの 三二六(四四・八%)のうち
- 1 土地狭少、人口過剰 九〇(二八・五%)
- 2 當面の問題として 九四(二九・七%)
- 3 絶對輸入以外に道なし 五六(一七・七%)
- 4 其他 七六(二四・一%)
- 二、見込あり 六六八(六九・五%)  
この理由として意見を附したるもの 四六四(六九・五%)のうち
- 1 耕地開拓二二六(四八・七%)
- 2 耕作法の改善 一〇八(二三・三%)

3 食物轉化 五〇(一〇・八%)  
以上三點の綜合策 三二(六・九%)

4 其他 四八(一〇・三%)

5 其他 四八(一〇・三%)  
以上を通じて見ると見込ありとするものうち意見を附したものが六九・五%、見込なしに對しては四四・八%であつた。これは見込なしとするものは一般的に常識的に考へられてゐるためである。考へられ、また見込ありとするものうちにも、ただ漠然と根據なしに無責任にありとするのではないかと考へられる點もないではなかつた。

見込ありの方の耕地開拓は、山林池沼、潟、舊軍用地、軍需建物敷地等を對象とし全体の 四八・七%を占めてゐる。耕作法の改善では、耕作の機械化、品種の改良、二毛作、養畜と堆肥の利用、化學肥料、農機具

給はどうしてもやらねばならぬとするものである。

見込なしの方では、最大の食糧供給地たる滿洲、朝鮮、台灣等を喪失し加ふるに敗戦により引揚民は狭い國土に充満しそれに内地の蒙つた戰災の上から考へても、とても自給の見込はたないといふもの、將來は見込のつくこともあろうが、現在三、四年はとても見込がないとするものが多かつた。

粉食の徹底も勿論よろしいが、しかし量はあつてもカロリーは低く、また空中窒素の固定化も相當研究せられてゐるが、之が工業化は早急に實現は不可能なるべしとしてゐる。政府は食糧不安より國民を解放するために許されたる工業の徹底的振興を期し、之らの工業製品を輸出して見返りとして食糧の輸入を圖るべきであるとする意見も相當あつた。

全体を濶じて看取せられることは耕地面積、收穫高、カロリー等その基本的數字を引用立論してゐるのは國民が、如何にこの問題に對して眞剣に考へてゐるかを示すものと謂ふべきである。

#### ◇どの政黨の食糧政策に賛成か

民生の安定は先づ民をして敢腹撃つせしむるにあることは言を俟たないが、各政黨はそれぞれ食糧政策を掲げてその實現を國民に公約してゐる。いまこれらのうち五大政黨の食糧政策のうち主なるものを抽出與

論調査を実施した結果は次の如きものであつた。

○供出完了後の農家手持米に正米市場取引を認め自由経済への復帰 (自由黨)三七・〇% (二六九名)

○食糧増配、肥料の國營生産(社會黨) 三三・〇% (二三九名)

○米價の値上、公設又は組合市場による闇撲滅(進歩黨) 一〇・三% (七八名)

○食糧の人民管理、生産と消費との直結(共產黨) 七・三% (五四名)

○食糧配給統制機構の廢止(協同黨) 二・六% (九五名)

◇食糧に對する強權發動は良

いか悪いか……

1 強權發動賛成 五五九 (七四%)

2 自主供出要望 一六一 (二二%)

3 其他、 三五 (五%)

回答は都市が六八%、農村三二%うち都市の強權發動賛成者七八%に對し、農村もまた六五%を示し、必ずしも全般的に強權發動に反對してゐないことが判る。

◇政府の憲法草案の賛否……

、今回の政府の憲法草案に對する批判により日本の基本的性格及天皇制

の問題も一應解明するものであるがこれに對する國民の輿論は次の如くである。

○政府案賛成 五三・五% (一〇四六名)

○修正必要論 一、主權在民強化 二五四% (四九八名)

二、主權在君主制に修正 一四・七% (二八九名)

○立憲君主制を廢し共和制とする 三・五% (六八名)

○其他他意見不明 二・九% (五六名)

◇國民に一番嫌はれてゐる政黨はどれか……

(女專一六二名) 一〇七

1 共產黨 一九

2 進歩黨 一九

3 自由黨 一二

4 總スカン 一二

◇新圖發行によるインフレ對策は成功すると思ふか……

(回答者 一、〇四八 男九八一 女六七)

○成功するといふもの 一五一

○成功しないといふもの 八〇四

○國民の協力如何によるとするもの 五二

○不明 四二

◇軍需會社への補償は行ふべきかどうか……

○行ふべし 一七六 (二七・六%)

○不必要 四七二 (七二・四%)

1 現在の銀行組織制度を維持せしめんとすれば補償を行ふの他はない

2 行はぬと銀行が脅威をうける

3 政府は公約したものは必ずこれを實行し信を國民に與ふべきである。

(一) 不必要の理由

1 一方で財産税、戦時利得税を徴收し、他方四百五十億に上る補償金を投げ出すのは矛盾も甚しい

2 戦時中最大利潤を擧げ、物資を獨占しインフレを増長した軍需會社に補償すべき役割の一端を國民が負はねばならぬ理由はない。

◇預貯金の制限は行ふべきか……

○行ふ 五〇二名 (七五・五%)

○不必要 一六三 (二四・五%)

(一) 行への理由

1 適切なる預金の引出制限はインフレ防止の一方法

2 財産隠匿行為防止となり、金にまかせての悪徳ブローカー絶滅のために即時斷行すべきである

(二) 不必要の理由

1 人心の不安動搖を招く

2 産業を萎縮せしめる。

◇復員軍人は歸還して先づ何を感したか……

○國民道義の頌慶 七八九 (三七・七%)

○食糧難 七七一 (三六%)

○國民の冷眼視 三八一 (一八%)

○就職難 一九八 (九%)

◇復員者の立場から何を政府に最も要望するか……

○遺家族の生活保障 三四二 (二二・六%)

○失業對策 二九四 (一八・九%)

○食糧問題の解決 一六八 (一〇・六%)

○インフレ防止と配給制樹立 一三三 (七・七%)

○復員者の厚遇 九三 (五・九%)

○現内閣不信任 八四 (五・三%)

○復員軍人の救援 六三 (四・〇%)

○戰災地の復興と衣住の確保 五四 (三・五%)

○生活の安定 二五 (七・九%)

○生産増強策 六四 (四・一%)

○インフレ對策 六二 (三・九%)

○民主的諸政策斷行 六〇 (三・八%)

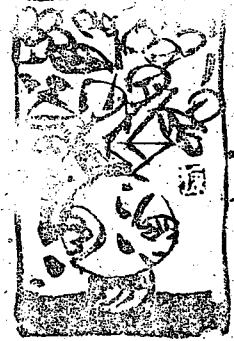
○社會國策斷行 五九 (三・七%)

以上を通じて看取せられることはあらゆる政策に先んじて食生活の安定が強く要求せられてゐることが判る。

◇戦後に讀んだ教養方面の書物のうち最も感銘せるものは何か……

(男子専門學校) 1 トルストイの「戦争と平和」 2 フイビテの「獨り國民に告ぐ」 3 藤村の「夜明け前」 4 「若い人」「旅愁」 (本社並に各輿論調査所調査)





# 時局問題の核心を衝く

## 新聞人の縦横座談會

### 憲法改正草案の性格

S. 今度の政府の憲法改正草案を網といふものは、今までに政黨各派から出されたもの

乃至は民間の憲法

研究會であるとか

或は憲法懇談會で

すか尾崎學堂さん

のやつてゐるあれ

あたりで出したも

のよりも非常に進

歩的なののだとい

ふ評判が出てゐる

大抵憲法を改正す

るといふ問題はポ

ツダム宣言を受諾

した時に既に發生

してゐる問題であ

つて、去年の十一月頃から政府でも

憲法問題調査委員會といふものを拵

へてやりだしたのでどういふふう

に憲法を改正して行くかといふ方向

### 出席者(順不同)

朝日柴田敏夫

讀賣増山太助

同奥村隆

同金久保通雄

新經濟姉齒仁郎

共同通信明峰嘉夫

日本經濟武藤明正

毎日矢加部勝美

同嵐信正

同會本社二木秀雄

はポツダム宣言の條項を今日日本が忠實に實行して行くといふ處に建前がある譯で方向としては一應決つてゐるわけなのです。しかし具体的にさういふ方向をどう

いふふうの規定して行くかといふことになるとなかなかかそこに問題が多い。特に終戦後の

どさくさが一段落してから共産黨が公黨として乗出して來て、まづ天皇

制打倒といふことを旗幟鮮明して以來天皇制の問題が非常に論議されるやうになつて來た

の權限を大きくするといふことについては程度の差こそあるが、日本再建の政治の基礎を民主主義に置く以上は一致した考へ方であつて、結局

天皇制をどういふふうを持つて行くかといふところに問題の焦点があると思ふ。それをめぐつて國體維持といふことをあくまで標榜する進歩黨

自由黨を始めとして其他社會黨、共産黨、民間各團體といふものから

これまで案が出て來てゐるので、非常にその間にニューアンスがあつた

そこで結局新しい憲法に於ては天皇制の問題を、大權を儀禮的なものにするといふ点で規定してゐるわけだ

すが、これについては天皇制廢止を當初から標榜してゐる共産黨を除いては、これではよからうといふ考へ方

になつてゐるやうです。結局憲法改正の眼目は一つは天皇制の問題、これはつきり規定づけるといふことそれから全然今までの憲法改正案に

新憲法問題  
食糧問題  
道徳問題  
政黨問題  
新議會問題

### 新憲法

F 今日のはわれわれが日々、のニュース或は國內の裏の面、表の面から觀察してゐる今日の日本の本當の姿及びこれを將來如何に發展せしめるかといふやうなことに關し一つ思ひきりさつづばらんに話し合ひたいと思ひます。さしあたり改正憲法問題から入りませうか……。

なかつた、さうして今まで世界の憲法に一、二の例を除いてなかつた戦争拋棄といふ問題、これについては政府の方では平和日本建設といふ面から非常に大きな眼目を置いてゐるやうです、又憲法の体裁から見ても非常にこゝに新しい意味があると思はれるのですが、或る民間の評者も言つてゐたやうですが、これを敗戦後の日本の現状から當然かうしなればならなかつたといふやうな消極的な受身の形に観るか、或は積極的に戦争を絶對にしない平和日本といふ建前を推し進めるといふ意味で規定して行くかといふところの考へ方をはつきり立て、置くことが必要ぢやないかと思ふ。

私は初め問題の取り上げ方をはつきりしなかつたが、結局今度の憲法の特色といふものを考へると、天皇制の問題を規定づけ、主権はあくまゝ國民にあるといふ建前を採つたこと、戦争を拋棄したこと、それに盡きるのですが、主権在民といふ建前から今までの憲法にあつた條項は殆んど形を變つてゐるわけで、結局この憲法が、いゝな附屬法規の改廢が濟んで實施されるといふ時に初めて民主日本の法律的な性格づけといふことが出来るわけなのです。

F 今度出ました憲法では戦争の拋棄なり主権在民といふことをはつきり申してかなり新しい意圖を表現してありますが、これは今までの舊い日本人なり或は舊態依然たる日本の政府なりでは甚だ劃期的な、實に意外な程進歩したものだと思ひますが、これを考へ出した政府には何か裏の考へ方といふものがある様にも思へますね。……この点非常に意外だつたですね。

憲法改正草案が生れ  
るまでの経緯

S 松本國務大臣の説明によると臨時議會で四原則を出しましたね、之は今の憲法の原則を大体採用してゐるわけですね。ところが一度のは凡ゆる点に於て根本的に違ふ、あの時分は戦争の拋棄を言はなかつたしね、どうしてかういふふうになつたかは誰でも疑問に思ふ。しかしそれは松本さんの話に依ると一應あの建前ですらに基いて憲法問題調査委員會で甲案と乙案と作つた。甲案は大體あの原則に副ふものであり、乙案といふのは主権が在民とまでは行かないけれどももう少し民主主義の徹底した形のものであつたと。その外にもう一つこれは案とまでは行か

かつたけれども頭の中で考へてゐたものとして大體今度のやうなものがあつたとかう言ふんですよ。その後いろ／＼聞いてみても、戦争拋棄などといふ問題は閣議の席上で憲法問題が出た時に、今の現状及びこれからの日本の行き方といふ点からみて再度武力を以て外の國と拮抗して行くといふふうなことは出来まいといふ意見もあつて、非武装の國として行くといふ考へ方も出てゐたやうです。しかし御承知のやうに政府の改正準備といふものは非常に極秘裡に行はれてつたわけで、だしぬけにあゝいふものが出たから意外だと思ふのは當然だけれども……。それからもう一つは憲法といふものはその國の國內法であると同時に對外的に日本といふものはどういふ國であるかといふことの一、二番正確な表現でもあるわけなのです。さういふ意味で考へると現在の國際情勢、それから暫くの勢力關係その他對外的な問題について相當考慮を拂はなければならぬといふことは當然なのです

ね。それで臨時議會で松本さんが四原則を出した當時から考へるとその間に國際情勢及び一般の情勢が進んで來てゐる。その情勢の急激な變化といふものは在來考へてゐた政府の

原案といふものをかういふ形にせざるを得なかつたといふ問題があるわけですよ。ですから今まで言はれてゐる幣原内閣の保守性、その產物として國民が意外だつたといふことは當つてゐると思ふんですよ。

何故憲法改正を政府は急いだか

F 何か知らぬが政府は憲法問題を非常に急いだやうに一般は感じてゐるが、國際關係や國內問題で急がねばならぬ事情が出來たのでせうかその邊をKさん一つ。

K 結局總選舉に間に合はせる爲に、憲法草案に對して各政黨がどういふ立場をとるか、これを批判させて總選舉に出させやうとしたのだと解釋して、と思ふんですね。

H それが必要でせうね。

G 憲法が重要だといふことと國家の基本法規だから、國家の性格といふものが、未來の發展の方向が非常にはつきり現れる、日本が敗戦したといふこと、すなはちポツダム宣言を承諾したといふことに依つて今までの日本を捨て、新しく生れ變らなければならぬ、その新しく生れる方向はどれだ、世界が注目してゐるそれが故に國際社會に浮び上つて來

るといふ時に今までの形では絶対駄目だ、さうするとどういふふうに生れ變るのかといふのが今度の憲法が國內問題でありながら國際問題になつたのだと思ふのですが、今度の第二世界大戦の結果敗れた國とか敗れないまでもフランスのやうに一度立直したといふのは、俺の國はかういふふうに生きるんだといふ方向を示してゐる。さういふ角度から日本の憲法を見て行く上にメドとなるのはポツダム宣言の十九條かに、日本の政治は自由に表示された日本の國民の民意によつて決まるのだといふことが書いてあるのです。在來幣原内閣が反動的な内閣と言はれてゐるのは、今度の憲法改正の根本的な命題を忘れたきらひがあるのぢやないかそれは天皇制維持といふことに捉はれ過ぎてゐる。日本國民に取つては天皇維持は大事かも知れんけれども世界の問題にはならない。イタリヤでも國王はあつたけれどもそれはなくなつたのですからね。ルーマニヤブルガリヤ皆同じなんです。日本だけ天皇制があるから特殊な立場を認めるといふ馬鹿なことはないんですよ。その点に對する認識が淺薄ぢやないかと思ふんです。さういふ角度からあの憲法は政府の今度發表し

た方向に行くことが宿命的に決つてゐたのですが、それに氣がついたかつかないかといふ問題なんです。幣原内閣が目覺めたか外の力で目覺めさせられたか、問題はそこだと思ふんだ。それは結局目覺めさせられたといふことになると思ひますね。Y、あれについて反對意見を出したといふのは公式に共產黨だけだ。あの中で二院制度の問題がある、あれは一院制度で出たものを二院制度にしてくれと頼んだ跡が歴然としてゐる、政府の方では熱心に二院制度を主張した、あそこで發表した綱領の中にあるんですよ。

H 併し根本的には今度の憲法改正をもう少し政府の側から考へてみると、ポツダム宣言の精神を生かすといふ意味に於いて憲法改正の必要ありやといふ点から出發してゐる。その考へ方は今後の憲法の運用如何だ。憲法の條章といふものに捉はれずに運用が大事なのでワイマール憲法の下にヒットラーが出現したといふ事實があるのだから結局運用の如何にある。如何に天皇制を立て又は抹殺したところで運用に懸つてゐるのだから何にもならぬと、さういふ考へ方があるんですな、だから政府が作つたものは形式はどうでもいいんだ、運用の方を重点に置いてゐたと思ふんですな。その考へ方からして行けば二月前後の空氣がよく分ると思ふんですよ。

G ちよつと言ひ落しましたが、何故急がなければならなかつたかといふと、世界的視野から見て行くといふと、今現に聯合國とイタリヤの講和條約が問題になつて、引續きドイツ、日本と平和條約を結ぶと、さうすると世界の動きがすつと進んで來る。現代の世界のやうになつて來ると一つの國だけが鎖國的な劣つた地位にあるといふことは成り立たぬ。日本のやうに七、八千萬の人口を擁して強國になる素地を持つてゐる國が何時までも押潰された状態といふことは世界全体の復興の上からいつても對等の地位に持つて行かなければ世界全体の進展の所以ぢやないんですな。さういふ点から日本に残される問題としては憲法改正、戦犯、賠償、それをどん／＼やつて行かなければ間に合はぬ。するするべつたりになると大變ですよ。さういふこともあると思ふんですな。

F 今までのところつまり憲法だけは國際的になつたといふところですね。

O 憲法の條章に於いてですね。

F 立法は民主的でよいが行政方面が本當に民主化されなければ本當の民主政治は徹底せぬと思ひますが今日の行政と今度の憲法の改正との關聯はどうでせうか。

憲法改正と行政の民主化

H 今後は行政は勅令とか何とかでなくて皆議會でやる。内閣官制であらうと官制は總て勅令でなく議會に附議して、そこで決定するといふ行き方なんですな。要するに議會を通つたものが民意を代表したものでそこに民主的なものが現れて來るといふことですな。

S 結局官吏の問題は形式面と精神面と兩方ある。形式的な面ぢや武藤君の言つた命令の出し方を民意に基いてやると、今までの緊急勅令であるやうなものではなくなつてゐるんですからね。それからもう一つはやはり形式的な面で官吏制度といふものですな。これが今までの在り方です。はとも駄目なのですよ、根本的に變へなければならぬ、それを憲法改正の問題と別個に政府で考へてゐたわけなんです。一部發表になりましたけれども官僚の立身出世主義を是正した方向のものなんですな。とこ



るがもつと重要な問題は、結局それは制度から出て来るものなんだけれども官吏の意識、官僚意識といふもの、そこに今まで非常に非民主的であつた大きな問題があると思ふ。それについては今度の憲法で、公務員といふ言葉が出て来て、それが社会に率仕するといふ性格づけがはつきり出て来てゐる。それに基いて今政府が準備してゐるのは官吏法といふ新しい法律を議會の協賛を経て制定すると、それには新しい憲法の中で規定されてゐる官吏の性格づけといふものをやるわけなんです。今までの官吏といふのは明治以來の官尊民卑の考へ方から生れてゐる官僚性だけであつて、お役人はえらいものだといふ考へ方は役人自身も一般の庶民も、大体お役人といふこと自体がさういふことを現してゐるわけなんです。さういふ考へ方といふものは一掃されて、憲法のさういふ規定によつて公僕と言ひますか、さういふ存在をはつきり規定させるわけです。それから新しい官僚意識といふもの、今までの官僚意識から全然正反對の公僕的な精神が出て来る。さういふふうになつてゐるわけですからともね。

ア さうするとワイマール憲法か

らナチスが生れて来たといふやうな不安はなくなる譯です。

H そんなことはない。それは要するに國民の政治的な訓練が大切だ國民の力によつて防ぐよりしやうがない。如何に立派な憲法を作つても運営如何によつてはヒットラトが出ると同じやうに、日本でもあゝいふものが出来来ないともかぎらない。

Y 同時にこれは國民の組織された力に俟たなければならぬ。

L 聯合國の輿論を見ても、今度の改正はオン・ペイパー即ち「紙の上」だけぢやないかといふ疑ひを以てみてゐる、實際それを如何に運用して行くかは國民自身の政治意識の昂揚と組織された力にまたねばならぬと思ふ。

M さういふ点で憲法を如何にして制定するかといふことが問題なんです。特別議會にかけるといふことが逆に幣原内閣を何時までも居据らすといふことに持つて行つてはつまらないけれども、國民の力に依つて憲法を作るといふ……。

H 今の七十七條を改正しないかぎり民意の反映といふことは望まれない。それから兩院共刷新した議會で自由なる拒否権を認めて活潑にやらなければならぬといふことは正當

です。その間の理由はいろいろですが……。

S 閣内でもさういふ意見があつたけれどもね。

M 結局政府の取扱ひはどういふふうになつたんですか。

S 雑誌に載る頃には決つてゐるんで……。

H 問題は如何に國民が自覺して憲法に副つて民主的に進んで行くかといふところが重点だ。憲法の條章を如何に論議しても國民の自覺がなければ如何にもならぬから。

Y 一方でかういふ憲法が出て、一方で國民の力を大きなものに作り上げなければならぬといふところですね。

L 今のところ國民のレベルの方が低い、もつと國民の政治に對する自覺が高まらねばならぬな。

### 食糧

食糧危機は六・七月か  
外米輸入は……

F では次に食糧問題に移りませうか。まづ實際絶對量が足りるのか足りぬのかといふ問題が一つ今のところ配給の方法と供出をよくすれば

一應食糧の確保が出来るのだといふふうには言はれてをります。實際それでよいのかどうか、又二合一勺ではどうしても足りないといふふうにはどうしても考へられませんが、それを三合にすることは出来ないのか、それからアメリカから食糧の輸入が出来るのか出来ないのか、出来るかすればその見返り物資は何か當てがあるのかないのか、さういふ問題について……。

M 國內の自給の状態ですけれども、結局中心になるのは二十年の産米、それがどれだけ確保出来るかといふことが國內的にどの程度賄つて行けるかといふことになるのです。二十年産米供出が御承知のやうに大体現在六割ちよつとしか行つてゐない。二月末で五割二分程度なんです。政府の検査を受けて正式に集荷されてゐないのを入れても六割前後しかないといふ状態です。今後それを如何にして確保するかといふことに政府が施策の重点を置いて、強権を發動して三月末までに大体百パーセントの供出をやるかといふことを言つてゐるわけなんです。具体的に數字としてどれだけ残つてゐるかといふと、大体二千萬石です。四千四百萬石が今年の見透しなんです。今

二千四百萬石しかなくて、一應三月末を目標に置いて二千萬石強權で引出さうといふわけです。それについては現在日本の中で悪いところは北海道と山梨と九州です。その三つの地區の事情が非常に違ふ。一様には言へないけれども大体においてこれらの供出を完遂して二千萬石出させるとすれば、どうしても農民の飢餓供出になるといふことが現實に大体言へると思ふ、しかし政府は自家保本米に手をつけなくて二千萬石持つてゐると見透しをつけてゐるので、この点については是非は問題になると思ふのですが、農林大臣とも議論したので、事務的な見透しと總理大臣のいふさういふ見透しと非常に差がある、強權發動といふのも極く一部分にしか行はれてゐなくて、山梨の如きところでも強權發動し得ないといふ實情にあるのです。實情が分れば分る程強權發動が出来ないと。さういふやうなことから結論して國內自給は農林省が管つて事務局案として發表したことがあるのです。結局五月一ばいまでしか保たないといふことになるのです。やりくりさへうまく行けば六月一ばい保つといふことになるのですが、大体五六月頃は行きつまるんぢやないか、

突發事故が起きない限り、交通がうまくなかつたり、その他の外的原因によつてはもつと早く来るかも知れませんけれども、順調に行つて五、六月までしか保たないぢやないかと考へるんです。さうすると結局新しい麥、早手の薯が七月中頃ぢやなければ大体食卓に上らないといふのが通例ですから、さうしてみると一應國內的原因から考へてみると食糧の危機といふのは六、七月ですね。それに對して政府は七月から本當の端境期の九月一ばいまでの分を三百十二萬石でしか輸入に仰ぐといふ計算であるわけです。その食糧の事情が現在のやうな情勢では聯合國側のこれも一番最初に言はれたやうに日本に對する態度といふものが非常に困難である。この開フィリッピンから入つて来たと言はれてゐますけれども、あれもアメリカから来たのだといふことが本當らしいですが、小麦粉もマツクアサーが日本を統治する必要から國內の治安を紊さないといふ建前で持つて来られてゐるので、本格的な食糧輸入は、さういふ形に於いて食糧輸入は實現して行くけれども、絶對必要量三百十二萬トンがさういふ方法のみによつて解決するかどうかといふことはこれは

疑問だと思ふんです。

Y それについて勞農記者會の會見で話が出たけれども、正確な實數を把握する根本問題は非常に大事なことです。例へば農林省で事實言つてゐる何百萬石の數字と勞働組合、農民で持つてゐる數字、それから専門のそれらの研究家が判定した數字、この間に非常に喰違ひがある。これが一つと共產黨で強權發動に對する反對の條件として農林省が出してゐる全体の數字を縣へ行けばどういふ割合になる、地方事務所へ行けばどういふ割合になる、農業者へ行けばどういふ割合になるかといふことを囁かにせよと言つてゐるんですよ。彼等が言ふまでもなく我々が周圍を見渡してもさういふことは言へると思ふ。例へば僕の友達なんだけれども自分の家で田を作つてゐるんですね自分達が食べるだけのものを作つてゐるところへでも非常に天降りのな供出割當が来る。自分の家では出せないがどうしてもこれを出さなければならぬといふならそれは話は別だけれども、それなら一体この村で戸どれだけ農業會へどれだけの割當があるか明らかにしてくれと言つた。言へないなら君、俺は新聞記者だから俺の方

で調べると言ふと、その後絶對來ない。言はないところへどん／＼やつて来る。その他米の横流れがある。農業會から流れたのが相當あつた。米がない／＼と言つてゐるのに農業會の中には毅然と米がある。而もストックされた米がどれだけかといふことが明らかにならずには收穫された數計全部を出したらどれだけになるといふことだけが明らかになつてゐる。これは大切な問題で、外米輸入にしても國內で國民が納得出来るやうに問題がはつきりしないと解決がつかぬと思ふ、しかしいまの政府のやり方ではさういふ問題が明らかにされてゐないと思ふんですよ。

戦前の食生活はどうであつたか

G 非常に大雑把な議論なんですけれども、食糧飢饉／＼と言ふけれども食糧の平常の状態はどういふのかといふと、米がいくら麥がいくらといふのは割出すことが技術的にむづかしい。それで日本が戦争前にどういふ生活をしてをつたかといふことが手懸りだ。昭和五年には一人當り一石八升まあ一石一斗あれば平常の状態であつた。それで昭和五年の状態まで持つて行けば安定した状態

と言へる。さうすると日本の産米といふのはどの位かといふと、非常に豊作の場合、昭和八年だと思ひますが七千二百萬石、これは七千萬石以上穫れたのは初めてだ。それ以外は非常によい時で六千八百萬石、六千二百萬石といふのは平年作なんです。朝鮮と臺灣を持つてゐる場合に朝鮮が千八百萬石から二千萬石、臺灣が九百萬石から一千萬石位です。全部引括めて一億萬石になれば一億と稱した日本人が全部食へたわけなんです。朝鮮と臺灣から年に多い時は四、五百萬石入つたんぢやないんですか。それがなくなつたから、日本の人口を假りに七千二百萬としますと未曾有の豊作の七千二百萬石ならちようどよい。二十年の産米のやうに四千萬石ちよつとといふと絶對量の不足で食糧飢饉と言はざるを得ない。さうすると後の三千萬石に相當するものが他の主食代替物によるか輸入に仰ぐよりない。それで今後七千二百萬石收穫が可能かといふと技術、肥料の面がわちよつと不可能でせう。さうすると日本の食糧飢饉といふものは輸入を當分の開して行かなければ續くといふ結論が出ると思ふんです。非常に大雑把ですがね、やはり日本が食糧輸入をし

て見返り物資を出すことによつて食糧を平常の状態に置くといふ努力を今後数年しなければならぬ。或は半永久的にしなければならぬぢやないかと思ふ。とすると日本から何を輸出出来るか、日本が重工業國でなくなつた以上はやはり戦前のやうに輕工業國として更生して、いろいろな輕工業製品、生活必需物資とか雜貨、さういふものを輸出して食糧物を運ばなければならぬといふことになるんぢやないかと思ひますね。M それに關聯してかういふことも考慮しなければならぬ、肥料の不足とか戦争中からの増産の強行で地力が弱つてゐるから、これは戦争中であらうがなからうがさういふ根本問題から來てゐる食糧飢饉であつて今年に戦争をやつてをつても食糧飢饉になつたのだ、どれ位日本で自給出来るかといふことになると、外米を輸入することによつて米價を調整したりその他養蠶との關係もありますけれども、日本の米作能力といふものはもう少し伸びる余地があるんぢやないか。技術的經營の改善によつて一應もう少し伸びるといふことが言へる。唯問題になつて來るのはこれからの農村の在り方ですね。要するにあくまで米作中心の今までの

やうな集約農業的な米作をするといふことによつて裏付けられるさういふ農村形態を破つて、もつと根本的な策を立てるとすれば、養蠶中心の階級的な農村に生れ變つて、さういふものを輸出して主食の輸入を仰ぐといふことに持つて行かれると思ふ現在の段階に於いてはそのけじめがはつきりついてゐない。繭の値段の問題でも養蠶を盛んにして製糸業を興して、糸は即ち米であるといふ考へ方に出来るわけなのですけれども、養蠶の現状といふこと、食糧輸入が當分の間見透しがよくない、世界的な飢饉の問題もあるし、歐洲の食糧問題も今年一年で解決する問題ぢやないといふ關係から、生糸を作つて輸出することによつて直ちに食糧が輸入されて日本の食糧事情が好轉するとは考へられないといふところから、日本の農村をどういふ形に作り上げるかといふことについてまだはつきりした見透しがないので食糧増産を強行しても限度がある。それを切り換へて生糸を増産するといふところまでも本格的に行けないといふ現状にあると思ふんですね。

#### 農業會の過少報告と

#### 横流し

K 當面の問題として今農業會か

ら相當な米が流れてゐるといふことは、農業會が政府に對して産米量を過少に報告してゐる。そこで農業會が集めたものを全部出さないで農業會で或る程度握つてゐるといふ現状で、それが流れて餓死——と言つても餓死者が割合少い、今度の六月の飢饉の時にさういふ農業會あたりの持つてゐる米とか農家の保有米の一部がいろ／＼な格好で流れて來るだういふ、代替食といふものを相當考慮に入れてやれば何か危機を切抜けるといふ目算は立たんのかね。

M 農林大臣の言明に依れば日本の凡ゆる米を考へると、數字上では七月一ばいまで保つ、現在まで横流れして金持の倉庫にあるのもさういふ横流れの數字も押へてゐるんですけれども言はないんです。さういふものを含めて考へれば七月一ばい保つ、さうすると新しい麥、粟が出て來るから息がつくだらう。輸入の問題が困難であつてもさう心配せんでもいゝぢやないかといふんです。しかし食糧の危機といふのが現実に現れて來るのはさういふ係數の問題でなく、北海道で現在米が二月月配給がなくて練や種いもを食つて生きてゐるぢやないかといふんですけれども、だん／＼配給が悪くな

つてさういふところが方々に出来る  
と食糧不安が醸成されて、加速度的  
に全国の食糧飢饉に發展して行くと  
我々は言ふんですがね。

### 農林記者會の大臣反対

Y いま農林記者會で大臣反対を  
やつただらう、あのいきまつて……。

M 食糧危機の見透しを大臣が七  
月と放言して、事務當局は六月まで  
といふ見解なんです。無責任に甘  
い見透しを放言してくれては困ると  
いふ話から大分開議でやられたとい  
ふいきまつてもあります、改めて見  
透しといふ問題について訊いそんで  
すよ。さうしたら彼は頭として七月  
と言ふ、それで七月の根拠を示せと  
いふことになつたんです。根拠は  
示されないんですよ、さういふ無責  
任な放言をして、もしそれを新聞社  
がその儘扱つて國民に報じたら大變  
なことになる。さういふことでま  
化せる食糧事情ぢやないんだから、  
もう少し責任を取つた政策をやつて  
貰はなければならぬといふ事を屢々  
言つたんですけれども、非常に不誠  
意に受取られるんです。記者會とし  
ては罵られた形になつたんですよ。

H 僕は樂觀的なことを聞くが、  
去年あたりから二、三月が危機で餓

死が出ると言つたけれどもやはり同  
じに食つてゐる。三月危機説もあつ  
たけれども食つてゐる。又政府が五  
六月が危機だと言つても大したこと  
はあるまい、と言ふ。その裏付けは日  
本にはまだ隠匿物資が隠されて、さ  
ういふところから放出して来るから  
心配したものぢやないといふ巷の聲  
を聞くんです。さういふ聲は何か深  
いところがなくても風潮としては聞  
き逃されないとところがある。

M 東京で去年の暮保有米が三日  
といふことがあつたんですよ。正月  
は供出がないのは通例なんです、舊  
と新の正月は。これは大變だといふ  
ので茨城とか附近からトラックで米  
を運んだわけです。一應凌いだ形  
になつたんですが、さういふ手を打  
つたんで危機がなくなつたのです。  
さういふ危機が東京にも今まで三回  
位あつた。その時に東京だから、東京  
を飢えさせてはいけなしいといふので  
策を講じたんですが、中小都市にさ  
ういふことが現れた場合、輸送とか  
さういふ關係から中央との連絡がう  
まく行つてゐないので、剩つてゐる  
ところから廻すといふことが迅速に  
行くか、さういふところから起きて  
来る危機、それを考へなければなら  
ぬ。四國の都市は苦しい思ひをし

てゐるのですが、或るところまで行  
くと補給が困難だ。六大都市とかは  
非常に敏感ですからね、たま／＼六  
大都市に主にさういつた底をついた  
時があつて今まで切抜けたんですが  
ね。

H それと共に三合配給説が考へ  
られて来ると思ふんですがね。三合  
配給すれば榮養の方も充分になつて  
来るし、生産意欲が旺盛になつて来  
るでせう。一月でも二月でも三合配  
給をやれば生産が向上して、そこに  
打開策が生れて来ると思ふんです  
よ。

M それは農林大臣のところへ行  
く度びにどなられる。君はこの數字  
を知つてゐながら三合配給が出来る  
と思ふかと言ふんですよ、さういふ  
ことを考へるのは不忠の臣だと言ふ  
さうして政治的な見解といふものは  
非常にないんですよ、事務官なんで  
すね。

S しかし日本は本當の食糧危機  
を今まで体験したことがないから、  
どういふ形で来るかピンと来ないん  
だね。隣組の常會で訊かれたんだよ  
どういふことになるんですかと。結  
局今の配給がなくなるんですよ、あ  
あさうですかと言ふ。今まで米の配  
給が外の配給に較べて正確に來てゐ

る。一週間と遅れたことは滅多ない  
といふので米の配給の確實性に國民  
が馴れてしまつて、いくら困つても  
配給がなくなることはあるまいとい  
ふ考へ方があるんだよ。非常に危険  
だと思ふんだね、パツと停つた時に。

### 北海道は種薯を食つてゐる

K 北海道で暴動が起きないんか  
い。

M 今までの危機は國民自體が解  
決したんですよ。買出しをやつて。  
貯蔵があるんで非常に緩和されてゐ  
る。今までは二十年産米が相當流れ  
てゐるんですよ。それから二千萬石  
強權で取ると言つたつてありやし  
せんよ食つちやつて。

Y 北海道の場合市民食糧委員會  
と生産者の直結で相當切抜けたんで  
せう。

M 今種薯を食つてしまひました  
からね。

K 東京のことを考へてゐるんぢ  
や地方のことは分らぬ、上野驛に一  
列車毎に三俵入るといふんですよ。  
東京にはさういふふうに開港から集  
つて来る。だから東京は何時でも相  
當食つてゐるわけなんだ。この開厚  
生省で榮養調査をやつたら二千六百



カローリ食つたといふんだからね、さうなつて来ると東京といふのは食ひ過ぎだよ。

粒食と粉食の問題

O 何か樂觀材料がないかね。

H 俺はパン食を奨励したいんだよさうすると八割で済みますね粉碾きで碾くんですよ、さうしてパンにしてやると非常に殖えます。二割貯蔵出来るといふわけです。それで大して饑しい思ひもせず、それに何か副食の野菜を作れば榮養から言つても充分ですね。

M 粉食の隘路は設備なんですよ。

H 家庭で粉砕機を使へば相當に有効だと思ふんですね。

M あれも商工省で昨年末までに五萬臺か五十萬臺か作つてやると言つたけれども出て来ないんですよ。殆んどそれの何分の一ですかね。結局市井のストックを利用した不良粉砕機は出廻つてゐますがね。私のところは一月半で毀れてしまひましたかね。

H たしかに粉食は體の爲にも非常にいい。

G 米の粉食は出来ませんか。  
H パンになるですよ、あれを碾

いてふくらし粉を入れて。

O 具體的に武藤君の話を聴かうぢやないか。

H 配給米でも麥でも一緒に粉にして一定量だけ、一定量と言つても相當あるんだよ、俺のところ闇の米を買はないよ。ふくらし粉を入れてね腹保ちはお粥なんかより相當いいよ。  
F 粉食か粒食にするかはむづかしい問題ですね。

M 政府の粉食といふのは結局失敗に終つたんですが、現在森永の、松永ですか、あれもやつてゐるんですが、小麦粉を入れなければ粉食にならない。結局食糧計畫の中に入つてゐる小麦粉を裂いて粉食に持つて行かなければならぬ。又それが少いと不味いし、粉食として一般に受入れられるものにならない、間食、お菓子みたいになるんですよ、小麦粉を裂くといふことが一番大きな悩みなので、小麦としてその儘配給した方が現實の問題としてはよいといふことから粉食が伸びないんですね、だから殆んど今のところ粉食は考へられてゐません。

F 粒食としては考へられますか。  
M 粒食としては考へられます。  
H 結局家庭の努力に俟つよりし

やうがないですね。

食糧問題の解決にも

日本の民主化が先決

M 食糧問題も日本の民主化が徹底しなければ外國の同情が得られない。それから東洋各國の物も日本の船が取りに行けないから、日本人の饑えるのに對してそれを救つてやらうといふ外國の同情がないので、その線を打開する爲に日本の民主化といふことを徹底しなければならぬ。國內問題にも同じことが言へるのであつて、農業者の割當の不信用、延びて政府に對する不信用、それをなぐする爲には國內機構の民主化が徹底しなければならぬ。

Y 話は飛びますが、海外同胞引揚問題で救援聯合會がいろ／＼やつてゐるのですが、朝鮮から歸つて来た人の話なのですが、朝鮮では非常に豊作であつて瀬戸内海を通じて朝鮮の米が流れて來ました。大阪なんか梅田の露店市場へ澤山出て、東京では相當取締つてゐるけれども、大阪は國外から流れて來たものといふので取締りをやらなかつた。それで梅田の驛へ降りると天井、にぎり何でもあるんですよ。モラトリアムの三日前に。その事の起りは密輸入の

朝鮮の米だ。それについて事實朝鮮にそれだけ米があつたかと訊いたら正確なことは分りませんが、豊作の場合には相當の餘剰が出る。その場合に日本にやらうと思へばやるけれども、朝鮮にしても人民政府が出来るると日本だつて東亞の同族だから餘剰があつたら分けてあげたいが、今のやうな日本だつたらせんとぞと聲明してゐる。例へば海外引揚げについても現地に留りたい、武装移民ぢやなくて眞面目に滿洲を開拓して留りたいといふ人が澤山ゐるけれども、本當に日本の民主化が徹底しなければ安心して平和移民に變へることは出来ないといふ空気があるんですよ。結局問題は同じなんです。

F 結局國民の自覺が高まつて民主化が徹底して來なければならぬ。  
Y それが日本の國際的な信用を裏付けるわけではせうからね。  
M 現在のやうな内閣の性格で、農業者の問題についても公選になりましてけれども、猛烈な選舉運動が行はれて、地主が米を配つて歩く。その位置に留りたいといふ運動があるといふことが、それが一つの力を持ち得るといふ農村の現状なんだから、結局米を供出させる機關の民主化といふことは望めない。國民が自



主的な機關を作つて、自分の手で作つて行く方向を示さないと都市にしても農村にしてもその方向に引張つて行けない。食糧管理委員會があつてもさういふ動きを示すといふことが絶対必要だと思ふんですよ。農村にしても都市にしても是非やらなければならぬことだと思ひますね。

Y 因果關係になるけれども、さういふ動きがあればある程政府では裏には共產黨とか陰謀があるんだと言ふ。ぶつ潰すことばかり考へてゐて、これでは何時までも對立になつて倒閣運動になる。

M 例へば民主協議會が積極的に動き出し一番最初に鯛を捌き下、鯛を生産者から消費者へ直結するといふ運動をやつて、これは社會黨と共產黨と鯛を奪ひ合つた。それに對して政府がたま／＼、これは意識的かどうか知らぬけれども食糧統制をもつて一週り始めたといふのでその組織が毀れた。

Y あれは意識的ですよ。

M しかし毀れたことによつて中央水産業會の事業運営とか青果市場が團結して、民主協議會の線に副つて新しい構想で出直さうとしてゐる政府はいろ／＼な手を使つて潰しにかゝりますが、そこから具体的に國

民の食糧方策が生れて来る。我々自身の手で食糧問題を眞剣に取上げるために組織を持つといふことはどうしてもやらなければならぬことと思ふ。

### 食糧配給には政府にも名案はない

S 政府で食糧の配給にどういふ考へ方を持つてゐるか突いてみると新しく統制する前だけれども、結局よい考へ方はないといふんですよ。政府でやるといふ建前を以てやり得る限度は消費者から委員を出して監視員を置くといふ程度のことだ。それでは根本的な解決は全然駄目なので、結局さういふ何年來やつてみてどうしてもうまく行かない機構といふものはこの際思ひ切つて政府の手から離して、消費者が生産者と直結するやうな行き方であれば解決がつかぬ。

M 今度の統制は消費組合が生産者から買ふことも出来ない。組合の中の消費組合まで駄目になつた。

S 野菜なんかでも再統制になる前は消費組合から輸送機關を持つて中央市場へ行くだらう。さうすると全都民に配給することが出来ない位少く入つたものは分けてくれたんだ

よ。ところが再統制されるとそれがどういふことになるかといふと、消費組合で受取つた連中は家庭配給は受けられないといふ建前を取るといふ。ところが消費組合の活動の一番重点は生鮮食料品を何とかして獲得するといふところに置かれるので、それが駄目といふことになる。非常に活動の範囲が限定される。さうかと言つて統制機構で行けるかといふと御覽のやうな調子だしね。

K 再統制になつて生鮮食料品が配給になつたかい。

S 大根が一寸位だ。

K 卽座に相當の配給でも出せば又物價の動きも違ふだらうにね。

S 時期が拙かつたといふことも一應言へるけれども、とにかく一應外してみても一應物が出廻つて、初めはよかつたけれどもじやん／＼インフレのえらいあれになつたもんで取敢えず元へ戻さうといふだけで、何等積極的なこれがよいといふことはないんだ。

### 今年の豊作は期待出来るか

来るか

M さつき言ひ落したんですけれども、今年の狀態から言つても來年はもつと不作だと思ふんですよ。地力

が衰えてゐるし肥料の生産がないし今年の麥は非常に豊作なんです。肥料がないため又悪くなつて來てゐる。二十一年産米が平年作まで行くといふことは今の狀況では言へない。ロシヤの革命の時を見て地力の回復に主力を注いで來年の食糧飢饉を未然に防いだといふことがありましてけれども、とにかく地力を回復させるといふことを今から考へて行かないと。

F 實際街で餓死はないと言ひましたけれども、やはり餓死してゐると思ふのです。例の本當の骨と皮になるのぢやなしに、絶對量が足りないから結局結核とかでどん／＼死んでゐる、大きな意味の餓死なんです。それを政府が全然考へてゐない。

Y 知つてゐても知らぬ顔をするんですよ。政府に手がないから再統制をやるといふことも考へられるけれども、嘘か本當か分らないけれども藤沼都長官と安田財閥が握つてゐる噂の高い水産統制株式會社が藤沼と安田の話し合ひで強制的に都の生鮮魚を再び統制するやうになつたといふ、これは本當か嘘か分らないけれども、何かさういふところに臭味がありますね。

H どうも共產黨の考へ方はさう

（笑）

M 生鮮食料品の統制の場合は事務局が全然知らなかつたんです。しやうがないから前を持つて来たんですよ。外的なあれがあつたかどうか知らないが、下から準備してがういふ方式でやつたら閣屋がなくなり配給が圓滑に行くといふ見地からされたものぢやないね。

S おれはインフレの緊急措置を周章してやらなければならぬので、金の面で歩調を合しただけで何にもないんだよ。

K マツクアトサー司令部の方針としても指令第三號で言つてゐるやうに、絶対不足の物資については配給統制をやらなければならぬといふことは決つてゐるんだ。統制そのものが悪いといふことは言へない。

### 金融緊急措置とその後

F 今話が出た食糧問題からインフレの問題とデフレの問題、新圓になつて大分皆逼迫してゐると思ふんですが。

H 今後インフレが昂進するかといふ問題、二百五十億で通貨がストップすればインフレはさう昂進しないと見てゐるんですがね。唯現在出

てゐる通貨が百五、六十億割つてゐる。後百億ですよ。街でみてゐると非常に拂出しが多い。この調子ですと後百億増加するのが目に見えてゐる。さうするとこの四月頃には二百五、六十億の通貨面に達するから、それから先き政府が大きな政治力を以て抑制するかどうか、そこにあると思ふんです。政府の大きな政治力に俟つ以外にないと思ふんですよ、民衆の自覚も必要だけれども、まあ政治力ですね。

S インフレの解決は金ぢやなしに物だよ。

L さうだ。今度の緊急措置令によつて物の生産が活潑になり、物が出廻るかどうか大きな問題だと思ふね。本社で大内兵衛、高橋正雄、美濃部亮吉さんらが座談會をやつてゐるがそこで大内さんは日本の生産設備は戦時中空爆その他で非常に破壊されてゐるので生産の復興は急激に出来ないといふ悲觀してゐるが……。生産設備の破壊と共に石炭をはじめ原料資材の深刻な不足が依然としてつゞけ限り急速な生産力の回復は望み得ない。新圓になつて物價を安定さすために政府は生必物資を再び統制し、配給制度に還元したがこれが果してうまく行くかどうか國民は皆

不安に思つてゐる。要は政府の政治力だが、この政治力を餘り信用してゐない。信用しないから封鎖預金の拂出しを盛にやる。さうすると流通が縮えてまたインフレに出るんぢやないかな……。

M 流通のテンポが速くなるんですよ。

L さつき話した大内さんらの座談會ぢや大内さんと美濃部さんだつたかな、今度の緊急措置令は財産税や戦時利得賦課を發表したとき同時になすべきで時期が悪かつたことは意見が一致してゐるが、時期は悪かつたが、やらないよりましだといふのといふやつたことは次のインフレのテンポを早めることになり、却つて悪いといふやうな議論が出てゐたやつた方がよかつたのか、やつたのがいけなかつたといふ問題は我々には分らんよ。

M 結局日本の場合は再生産が出来なくて物資の欠乏といふことからインフレが促進されて来る。資本中心のインフレ対策が行はれて産業の方に考へられてゐない。

L あの時丁度大阪にゐるが、野坂參三氏が中之島の歡迎國民大會に出て、我々も政權をこつてゐればモラトリアムをやるであらうけれども

それは物價騰貴のための生ラカシだ。今度のは時期も悪かつたし第一貧乏人のための緊急措置ぢやなくて金持のための緊急措置だ。事業資金、生産資金が非常に資本家に金融資本と結びついて出るやうになつてゐる。事業家の生産資金といふものが生活資金に廻し得る。廻し得ないのは百圓で釘づけされてゐるものだと濫濫財政の反動性を鋭く指摘し大阪の商人の心を非常にうまく掴んだやうだつた。さういふ危険性はたしかにあると思ふ。

M 眞面目な中小企業家は生産を再建しやうと思ふその時にはデフレなんです。その点に對して政府は考慮してゐない。その点を考慮しないと総合対策をとる時に意味がなくなりませぬ。

K 最近物價を見ても下つてゐない。生産原料を闇の時に買つてコストが高くなつてゐるから。

M 會社が負債を持つたまま、運轉してゐるからコストが高くなる。今までの負債を背負つた會社を凍結して新會社として出發するならばまだやりやうがあると思ふんですよ。さういふ点で政府がふんぎりをつけてくれないから、總ての点で動き出しにくいといふことは言へると

思ひますね。

I 幣原内閣はこれらの問題と眞剣にとつ組んでやつて行くといふ情熱、眞剣に考へてゐるかどうかといふ点ですね。天皇制の護持だけは一生懸命考へるけれども、國民のための社會政策といふ点においてはどうかといふ氣分を持つ。

### 民主戦線でも經濟綱領は消極的

Y 民主戦線の問題にしても政治的なイデオロギーは先にいつてゐるけれども、經濟綱領の問題は非常に消極的になつてゐる。

H 幣原内閣はさういふ經濟方面に對して無能のやうに言ふが、僕は別に擁護するんぢやないけれども、やらうといふ意志は持つゐる。石黒が中心になつてやらうといふ意圖はあるんですからね。

M その場合に將來の日本の經濟を建設して行くといふ點から、世界經濟の一環として日本の經濟をどういふふうに住直すかといふはつきりした見透しを持つてゐないんぢやないんですか。

K 賠償問題がはつきりして來ないともどうにも言へないからだよ、一應賠償といふものがはつきりした形

をとらないと企業家だつてどうにもならない。

H そこまで考へてゐる暇があるまい。國內問題で一ばいだし、將來の世界經濟に對する抱負だとか考へてゐないと思ふんですよ。

Y 官邸で眺めてゐるあなたの方の考へ方と僕らの方とはやつぱり大分違ひますね。勞農記者會は共產黨で聲明があるといふとさつと飛んで行くといふことになる。現實の緊迫した動きにぶつかるとして、その立場で幣原内閣でも見るからあなた方と大分違ひますし、何といふか、一方的になるといふが、ギャツプがあるんですね。

S 實際幣原内閣は哀れだと思ふんですよ、悲劇的性格といふことを言ふんですけれども、全然政黨を持たんでせう。内閣の中のやつに言はせると政府でかういふふうによりたいと思つて新聞に發表すると必ず叩かれる。政府の正當なといふかさういふ意思はそのまま受取つて貰へないとなげててをつたですけれどもね。

Y なるほどね。

K 僕は外務省へ行つてゐるんだけれども、マツクアーサー司令部の方でも今の新聞の書き方は正鵠ぢや

ないといふ、必ず反對するといふんですよ。

### 建設的な批判

S それは我々考へなければならぬ問題で、一般に國民の風潮として建設的な面がない。僕等も戰爭中政府を批判するといふことは禁ぜられてゐたし、さういふ意味で大いに批判する、戰時中押えられたことに對する反動といふ言葉は悪いけれども、一つの反作用としてさういふ面が強く出て來てゐる。しかし本當にゆくり考へてみると批判はやはり建設的でなければ本當の意味の批判ぢやないので、今までのあれを考へてみると、何か政府なら政府で一つの案を出すだらう、いかんといふんだ。これを、これはいかんけれどもかうした方がいゝといふ意見は餘りないんだよ。

H それはやはり幣原内閣の上存在するものがあるからさういふ點に言及出來ないのぢやないかな、僕はさういふ感じがするのでせいぜい批判も差控えるやうになるし……。

S さういふことゝ違つてもものゝ考へ方が建設的ぢやない。

I 一般大衆の戰爭中押へられた反動として民主戦線の壓力が強い、

批判の面が強くて建設的面の少いのは過渡期でしやうがないと思ふ。保守的な勢力と進歩的な盛上つた民主統一戦線の勢力の對立は必然です。幣原内閣の悲劇的な苦しさはよく分りますかね。

Y 僕は幣原内閣に良心があるといふことを信じないけれども、それだけの悲劇的性格があり身を以つて彼等のインテリジェンスで感じてゐる關係があるとすれば、反對するの悪いけれども、問題の出し方についても相手を反撥させるやうな出し方をしてゐるのぢやないかといふ氣がしますね。

K しかし具体的に言つて食糧管理強化をやる、それはいかんと言ふ。ところがぢやどういふふうにするれば食糧供出が促進されるかといふ各政黨なら政黨がさういふあれを持たなければならぬ。たゞ農村と勤勞者と直結するとかさういふ抽象的な問題ぢやなしに具體的なものを持たなければいかんと思ふ。假りにこの次の選挙で民主戦線内閣が出來ても供出が、まあよくなるかも知らんが非常に困難だと思ふ。例へば社會黨が内閣を握つたとして、社會黨の内閣の下で日本の供出がよくなるかといふと僕は斷言出來ない。

社会黨は内閣を退つた場合供  
出を出さなければならぬから、農業  
會を潰せなんていふことを言つてゐ  
るけれども、あれを潰さないでじつ  
と置いといて、社会黨が出たらこれ  
を使つて出すんだといふやうな考へ  
を持つてゐますよ。

M 強權でも農地調整でも倒閣一  
本です。

Y 問題はそこなんだ。結局倒閣  
なんだ。

L 十年昔の立憲政治と言はれた  
時代を見ても在野黨といふのは倒閣  
だからね。

S 今の段階が非常に戦後の惨め  
な状態だらう、かういふ段階におい  
てはやはり國民は疲れてゐるんだよ  
だからいろいろ問題を選舉を目  
標にして倒閣に結びつけさせて、黨  
利黨略なんだ。社会黨、共産黨、自  
由黨が幣原内閣反對を表明する理由  
として、保守的、官僚的、反動的とい  
ふ性格を謳つてゐる、さういふ面は  
たしかにあるけれども、それを叫ん  
でゐるだけでは何にも生活はよくな  
らぬ。

### ◇道徳

L 日本人のモラリティの問題だ  
けれども今まで体験したことのない

敗戦といふ混乱した激動期に國民は  
曝らされて、何事も大乗的に考へる  
餘裕を失つてゐるやうに思ふ、電車  
に乗り降りの混雑を見ても俺が  
といふ自己防衛だけで一ぱいの我利  
我利根性といふものが凡ゆる面に出  
て來てゐると思ふんだな。

M 日本の現在のレベルからいつ  
たら反動的な勢力を代表してゐる幣  
原内閣を認めて、この施策はかうし  
た方がよいといふので直して行つた  
方が、根本的に覆すよりも効果的だ  
人民政府が出來ればいふけれども當  
面の問題にならない。

L 戦時中は勿論明治以來國民の  
上にのしかつてゐた舊勢力が崩壊  
して勤勞階級を主体とする新興階級  
が盛り上つてゐるのも敗戦から來た  
宿命だと思ふな。今S君が言はれる  
やうな建設面がないといふことも考  
へられるけれども、さういふことを  
抜きにしてどぎつい批判とか戦ひと  
するやうな勢力が興つて來るのも民主  
革命の必然性だ。これをまあくさ  
う言はずにと言つたのでは本當の下  
から盛り上げる民主革命は望めない  
と思ふな。

Y 行くところまで行くと思ふ。  
M これもやはり國民の悲劇なん  
だ。

S いろいろ考へてみて、何と言  
葉は難敵だけれども新しいモラル  
といふものを欲しいやうな氣がする  
ね。

L それは實際だ。僕はつくづく  
外地から歸つて來てさう思ふね。汽  
車の乗り降りでも窓を毀す、人を押  
しのけて乗る、社会觀念とか、公共  
觀念がないといふか、自分さへよか  
つたらよいといふ考へだ、田舎へ行  
けば昔は純真だつた農民も同じでお  
互に自分のことは棚にあげて聞の話  
で持ち切りで、隣の誰々は芋をいく  
らで賣つた誰々はもう何萬圓貯めた  
といふ話ばかりで、日本の國が將來  
どうなるといふやうなことを考へて  
ゐる人は實に少ない。

M 共産黨はヒューマニテイでな  
いから……人間といふものは温味が  
ほしいですね。  
H 根本的な問題は生活が安定し  
てゐないからですよ。

### ◇政黨

S 共産黨の問題でもいよく公  
黨として出て來た時に非常に期待し  
たな、今までの政治活動をして來た  
人は多かれ少かれ既成政黨の罪惡を  
身につけてゐる。本當の新しい世界  
を建設する資格を持つてゐない。共

産黨をけり持つてゐる。その世界観  
の科學的根拠を我々は是認する。因  
大きな期待を持つた。しかし現實に  
共産黨が黨として活動をつづけ  
るところをみると、いろいろ指摘さ  
れてゐるけれども寛大であることに  
欠けてゐたり考へ方が狭かつたりと  
いふ態度が見えるんだ。野坂とか黒  
木とか志賀とかあゝいふ中心になつ  
てゐる人達はさういふところはない  
だらう、恐らくね。黒木なんか人間  
的に見ても立派だし話の態度なんか  
狭さといふものは餘りないよ。しか  
し共産黨員の中で餘りに今までの、  
昔からの非合法時代からの行き方が  
身につ過ぎましてしまつて、もう少し  
何とかならぬかと思ふ人がある。野  
坂氏が歸つて來て大衆に愛される共  
産黨といふことを叫んだらう、あれ  
は共産黨自身にとつても大きな批判  
であり國民もその言葉として受取つ  
た。あゝいふ實情はたしかにあるん  
だよ。

H 共産黨も闘争心は捨てなければ  
ならぬ。昔の闘争心はいやだ。  
上へ挑みかゝるといふ。  
S 闘争心はいいけれども……。

野坂氏と今の共産黨  
K、毛澤東が主張した線に近い共



産黨をもつて行かうとして運動してゐる、最近五、六年の延安共産黨の運動の中心をなすものですね。野坂氏が歸つて來ても、延安ではつきりさういふことを考へて、外から見て考へて來てゐる。歸つて來て直ぐ大衆に愛される黨といふことを言ひ出したんだね。天皇制に對しても封建的な天皇制はいかん、しかし天皇は國民が支持する限りどうのからうといふことは言はぬ。延安の先生の經驗といふものが非常に大きく活かされて來てゐる。僕等非常に懸念するのは、さういふ野坂氏を今の共産黨が全面的に受入れてゐるかといふことと……。

Y 野坂が實業家に會つても政治家に會つても社會黨の人に會つても彼が個人的に話すると満満に行つてゐるし、共産黨の内部で受入れないから満満に行かないのかといふと野坂が歸つて來て、あゝいふ方向へ少しでも行きかけたらもつとかういふやうにならずに、野坂が要求してゐるやうな方向へ共産黨の内部でつてすつと行けたと思ふんですね。しかし客觀的な情勢をみて來るとすつと民主戦線がすれて、昨日の都廳へ押掛けて行つたデモ、都廳でも代表がやつて來て話合ひをすれば話がつい

たんだといふんですねでも、一人か二人行つて我々は市民食糧委員會から來たんだと言つたつて都長官決して會はない。會つても受入れない結局大衆運動といふ形をとらなければならぬ。さうすると大衆運動といふものは何かの背後によるものだし、いふ目で見るだらう。最近の強憤運動にしても何にしても共産黨が相手と融和しないといふけれども、相手だつて非常に同じ傾向を持つたもので、結局さういふ情勢が黨に與へてゐる影響を考へなければならぬ。

てゐたと思ふんだな。今後の、合法的に活動するやうになつてからの行き方といふものをみてゐると、それを相應した戦術がとられてゐない。さういふ點で誤解されてゐる。信州へ行つた時に農村の人にも話したけれども、共産黨の言つてゐること、大して矛盾した考へ方を持つてゐないんだよ、しかし共産黨員がそこで一つの組織を作らうとしゐるだらう例へば農民委員會、そこでは農民組合と言つてゐたけれども、さういふ人達の行き方といふものは今言つたやうな意味でも地についた戦術といふものはとれてゐないんだな。そのために非常に反撥するんだ。

秩序が混乱してゐて、戦争で十年間か安定した生活が得られなかつたために思想的に非常に混乱してゐる。生活が安定して來れば思想も安定して來る。その思想性といふものが出て來ない限り共産黨でも何黨でも根本的なものが出来なと思ふんですね。僕はまだ一歳月を要すると思ふんですよ。

と……。

と……。

と……。

と……。

と……。

と……。

と……。

と……。

H 共産黨が本常に國民に愛される黨であるならば今いつた闘争心を捨てなければならぬと言つたんですね。以前は支配階級の陣營が非常に鞏固に固められてゐたからそれをぶち毀すといふことが問題だつたが今はそれがないんだから、一方に於て支配階級といふものを崩壊して反動的なものを追拂ふと同時に建設して行かなければならぬ。さういふ面から來る闘争的な面は除かなければならぬ。

A ビューリタンだといふんですね。一つの封建的な道德観、かういふものはどうしても出て來るんですね。一本氣になつてしまつて、政策的に考へて行くのでなくて道德的に判断して行くのが、共産黨に對して道德觀の裏付けでものが喋られて行くといふ傾向が強いから、日本人全体が民主主義的なものを身につけて行くといふことにならなければならぬ。行かんと思ふ。

H 僕が言ひたいのは、今は社會思想的混亂  
日本人の生活不安と  
G 地方で聞いて來たことだけれども、進駐軍が日本は公益、公共の福祉といふことを知らんといふんだな。それで共産黨であらうと企業家であらうと皆さうだといふんだ。僕はあれは當つてゐると思ふんだね。

Y さういふ弱點見えるね。  
G 高國根性を一擲しなければ日本の民主化は出來ない。  
S 新しいモラルもそこなんだよ僕等民主戦線の必要性を認めるけれども、さういふ心が欠けてゐると具體的に作つて行く場合ものにならん民主戦線の動きが一向に具體的に動き出さんには大きな原因がそこに



ある。

M これはコンミニストばかりでなく、リベリストにも言へる。

Y かういう時には指導者が新人を立て、その陰で全体の動きを促進させるといふ態度が必要だね。

H その場合指導的なものは何がいふことは疑問だ。

Y しかしよい人、既慮の色のついた人でなく、よい人を皆が推薦してやつてやるといふ考へ方があればもう少し違ったものになるといふことは言へる。

H しかし要するに日本人はもつと苦しむだけ苦しんだ方がよいと思ふんです。そこから一つの安定的な考へ方も出て来ると思ふ。思想的に言つても苦しむ方が足らぬと思ふ。

G 明治維新の解決のしかたが非常に曖昧だといふことになる、昭和維新が下から盛り上つた力ぢやなく上から興へられた。革命だこれが致命的な問題だ。

F この雑誌が出る時分には新議會になると思ひますが、議會に求めるものとしてどういふものを……。

### ◇新議會

S 餘り期待してゐませんね。

M 共産黨の話が出たから、各黨の話をもう少し出して貰ひませう。

F 社會黨はどうですか。

K 共産黨の話が一番出たのは共産黨が一番期待も關心も持つてゐるといふことなんだね。既成勢力は別に大して批判の對象にならんですよ。

M 人民戦線に對する社會黨の動きがどうなりますかね。社會黨の中はどうなんだね。

A 僕も餘り知らんがね。

K 個人加勢もいかんと言つてゐるんだ、選挙対策一つで来てゐるんだね。

M あれは選挙がなければ内部で割れますよ、出来るだけ一つの看板にしてゐるのは選挙ですよ。それと後に續く政治の上での發言權。社會黨の態度が根本的にそこにある以上は民主戦線に對する一つの考へ方では我々は卒直に一つの理念として考へるけれども、社會黨の立場からすれば今の立場を前提としてゐる以上今加盟するのは得策であるかどうか、共産黨が提唱した人民戦線に入つて行くのは今の共産黨の國民の人氣、社會黨の進出から考へて得であるかどうかといふ點から總て割出されてゐる。

Y 山川尙自身が總選挙後にしか出来上らないといふことを言つてゐる。

るですね。

S 共産黨を除いての民主戦線が意味のないのと同じやうに社會黨の参加しない民主戦線は何等力を持たないもので駄目ですよ。

### 人民戦線に對する社會黨の態度

M 社會黨は伸びて行くだらうけれども、さうすると人民戦線に對する態度は變らないな。

S 今の共産黨が提唱してゐるものに對してだけれども、現實には人民戦線の必要性は必然の方向として社會黨の連中も知つてゐる。社會黨の手によつて作らうといふことは行くだらう。

L 民主統一戦線は日本の民主革命遂行上必然的に出来ると思ふ。社會黨もその必要性を知つてゐるに違ひない、たゞ問題は社會黨がイニシアティブをとるか、共産黨をとるかといふことでござい／＼と採め時間がかる。これは支那事變前日本の對支經濟が露骨になつたとき西安事變で國民黨と共産黨との抗日統一戦線が成立し、對日戦に入つたが、抗戦中、國共兩黨はたへず相剋を繰り返して、現在でも北支、滿洲への進駐で對立相剋をつゞけてゐる、これらは結局兩黨の領導權獲得をめぐる問題だが日本の人民戦線が成立しても今

後これと同じやうなむづかしい問題例へば社會黨が共産黨に喰れるとか喰つたとかいつたイニシアティブの問題でござい／＼はつゞくと思ふ社會黨と自由黨の聯立内閣が出来ると人民戦線がどう形を變へて行くか。

その目標が選挙の結果によつてどうなるか、自由黨と社會黨の聯立内閣になると社會黨の内にも内部分裂が来て、社會黨と共産黨の本當の人民戦線が出来るとか……。

H 僕もつと大きなものを考へる必要があると思ふんですよ。総合的な方面からみて進歩のあれがないですよ。いま行くやうな行き方ぢやなしにもう一步進んだ総合的な行き方から行かぬと發展が地について来ないですよ。

S 包容性、綜合性といふものは分るけれども、本質的に違ふものが抱き合ふといふことは出来ないと思ふんですよ。

H 非常に哲學的になるけれども何か反動的なものから一つのヘーゲルとかカントの哲學を引くわけぢやないけれども、僕はものを考へる時一つつたな、對立的なものを考へると發展性がない。

L それで辯證法が成り立つんだよ(笑聲)

F ではいろいろありがたうございしました。(三月十四日)



## 道義世界の創建

岡田正三

原始社會には法律がない。道義もない。しかし決して無秩序ではなく、長い間の社會生活經驗に教へられた慣習を持つてゐる。慣習は法律のやうに社會生活規律としてこれだけは最少限度に必要であるとして制定せられたものでもなければ又人間たるものはかうすべきだといふ自覺にもとづいた道義とも異なる。法律や道義ほど自覺的ではないが、しかも社會規律として缺くべからざるものである。今日の社會でそれに一番近い性格のものを求めれば、それは禮儀であらう。しかし今日の禮儀ほど狭いものでもない。禮儀に法律や道義を加へたやうなものであり、それが禮儀と同じ形式であらはれてゐるのである。支那思想史ではそれを禮と言ふ。禮は文化の進歩とともに人間の自覺によつて社會規律として最少限度に必要な範圍を法律制度として分化し、各人の自覺に訴へる範圍を道義として分化する。後に残されたものが禮儀である。従つて禮は法律や制度でもなく、道義でもなく、禮儀でもなく、それらが未分混沌として「くらげなすただよへる」状態にあるものと言はれてよい。

禮は大切である。しかし何故にさうしなければならぬかといふ理由は説明せられてゐないから人間の自覺が何故にといふ説明を求めると至ればその權威を失はざるを得ない。それを個人の生長過程に見ればヘタチ前後の生意氣盛りとしてあらはれてゐる。生意氣盛りはその人の自覺によつて理由の明かでない社會規律の權威が疑はれる時代である。その過程を経て承認すべき理由のあるものは承認し、承認できないものは改廢する。そこに文化の進歩がある。生意氣盛りは一概に斥けるべきではなくて文化推進

力として重要なものである。

さて個人の生長過程において生意氣盛りとしてあらはれる現象は思想史ではどうあらはれるであらうか。既成社會が平和である限り禮の權威は疑はれない。その社會の基礎がぐらついて別な社會に移らうとする時、人々は生活の據り所を失つて不安にかられ新しい據り所を求め、これを支那思想史に見れば春秋から戰國にわたる時代である。當時支那では武力が横行して最高の權威となり禮に權威を認める社會は潰滅した。人々は生活の據り所を失つて孟軻のいはゆる放辟邪侈爲さざる所なきに至つた。その時に新しい生活の據り所を求める民衆の代表として出現したのが孔子である。孔子はまだ禮の復活を望んでゐたことが論語にはつきりあらはれてゐる。その限り彼はまだ過去の人である。しかし禮の復活に努力してゐるうちに何時か彼は禮に代る仁を發見してゐる。克己復禮が仁であると彼の言ふ時彼は禮から道義世界を發見したのである。ついで孟軻は仁に義を加へた。道義の世界は一番はつきり禮の世界から分化したのである。

孔子が克己復禮を仁となした時、彼は禮に歸つたのではない。禮といふ外的權威の基礎を仁といふ内的權威に見出したのである。それは彼の意識を通じて外的なものに動かされない確固たる據り所を内心深く求め得たといふことである。それは自由意志の志向する所である。自由意志なくしては仁は發見せられない。彼は自由意志を發見したのである。自由意志によ

つて仁に志向する。その時に彼を動かし得る外的權威はない。王侯も彼を動かして不仁を行はしめることが出来ず、貧窮も仁行を悔いさせない。道が行はれないとすれば役に乗つて海へでも出ようか」と述懐せしめ、「偉いよ回は！一椀の飯、一瓢の酒、裏長屋住ひしてをれば、他の人ならその憂鬱に堪へられないのだが、回は平氣で楽しんでゐる。偉いよ回は！」と歎稱させるのである。外部の情勢がどうあらうと彼は仁に向つて勇往邁進する。それが道義心である。そこが道義の世界である。

道義の世界に住む時、人はその行動に絶対の信念をもち、決して悔いがない。この世界に参加する者を絶対に支持し、この世界にそむく者を絶対に排斥する。そこに責任がある。反面から言へば責任のない所に道義はない。道義は又自由意志の志向する世界であるから自由のない所に道義なく、従つて責任もない。自由を與へずして責任を強制するが如きは孟軻のいはゆる木によつて魚を求むるの愚である。戦争中日本の爲政者はこの愚を敢てしたのである。さて孔丘は慣習から道義を分化した。孟軻はそれを更に推進した。個人の生意氣盛りといふ現象は支那思想史では孔孟によつて代表せられる。これを西洋思想史に見ればソクラテス・プラトンが孔孟に相當するであらう。ソクラテスこそは慣習から多くの徳目を立て、道義の世界を分化した者であり、プラトンはそれを更に推進せしめた。

さて我々は日本思想史においてこの生意氣盛りといふ現象、つまり慣習から道義の分化する過程を何處に求め得るだらうか。日本では國民道德の中心が忠孝に置かれてゐる。その忠は封建時代における封建諸侯とその家臣との特別な關係の間に發達した徳目である。一般人民は關係しない。孝は親子といふ肉親關係の調整に要求せられた特殊な徳目である。一般社會生活を規律するものではない。明治維新は諸侯を抹殺して忠を天皇對人民の關係を調整する徳目にかへたが、それも忠を人民の自由意志の志向する道義として人民の發見したのではなく、外的權威の強制するものたるに止まつてゐる。軍人は「休め」の姿勢で訓話を聞いてゐる時に「天皇陛下」とかそれに準ずる言葉が出れば不動の姿勢にかへることを要求せられる。それに應じないとならぬ。自由意志にもとづいて不動の姿勢にかへるのではなく、なぐられるからさうする。それが彼等の解する忠だ。忠とはなぐられることである。これが軍人ばかりではなく一般にも強要せられた日本人にとつて忠とはなぐられることであつた。これはまだ道義とは

言へず慣習にすぎない。道義であつたならば今日天皇の批判が自由になつても忠の徳目が強く人民を支配する筈であるが、慣習にすぎないから今日ではさうなつてゐない。それはともかく、社會生活を一般に規律する道義が慣習から脱化したといふ事實は日本思想史には見られない。戦前まで或る程度に社會秩序が保たれてゐたのは慣習や法律のおかげである。だからこそ今日敗戦の結果として生活が脅かされると商人は横行する。交通秩序はみだされる。特攻くづれが強盜をする。これをもつて道義心の失墜なりとするのは輕卒ではあるまいか。人々はよく道義が地に墜ちたと云ふ。地より上にあつてこそ初めて地に墜ちる。初めから地にあるものは地に墜ちることはない。日本にはまだ道義がなかつたのである。今までの日本は禮の社會であり法律の社會ではあつたが、まだ道義の社會ではなかつたのである。道義未生の社會であつた。そこへ未曾有の敗戦に見舞はれて社會は根柢からゆりうごかされ、禮は崩壊した。法律も權威を失つた。人民は生活の據り所を失つてたゞ利己心の求めるまゝに動く。放肆邪修爲さざる所がない。孔孟時代がそのまゝ再現せられてゐる。

しかしそのやうな状態に人民が何時までも満足しつゝゐる筈はない。物資を買ひあさつてインフレに協力した人々も資金の缺乏ととも「何とかならぬか」と悲鳴をあげ出す。これでは電車にも汽車にも乗れないからもと秩序を立てなければならぬと反省し出す。あらゆる方面に社會秩序の恢復を要望する聲が高くなつて來てゐる。支那思想史で孔孟の出現を促した要素は大抵そろつて來たと云へよう。道義創建の前夜はこゝに於て、黎明を待つてゐるのである。

こゝで社會秩序の恢復を政治に求める聲は大きい。法律で何とか取り締まれと言ふ。それは如何にも重要なことである。政治はいま強力にならなければならぬ。しかし政治はあくまで人民の社會生活を最少限度に規定するものである。いかに法規を整へても人民がその行爲に道德的責任を持たない限り、法規は「まぬがれて恥なく」いくらでもくぐりぬけられる。そのことは戦争中に數多い統制法規がありながら、どんどんくぐり抜けられたことに見てもわかる。政治は必要であるけれどもそれで十分ではなく、あはせて道義が創建せられなければならない。春秋戰國時代の支那民族の要求が法家を出現させたばかりで満足せず、一方に孔孟を生んだ所以はそこにある。我々はこゝに道義世界を創建しなければならぬ。

ところで孟軻は恒産なき者に恒心なしと言つた。たゞし例外もある。そこで恒産なくして恒心があるのはたゞ士だけであると言つた。産とは生産業である。生産を定職としてそれに従事する者は生活に不安を感じない。そこで自己の信念のまゝをやり通す勇猛心を持つてゐるといふのである。又士とは役人である。役人は生産にたづさはるのではないけれども人民の爲に政治にたづさはり、その反對給付として生活を保障せられる。だから生産に従事しないけれども生活は安定してゐる。そこで信念のまゝに進むことができる。それらの人々にして初めて自由意志にもとづく責任ある行動がとれ、道義世界の創建に参加できるといふのである。これは今日でも變らない。道義創建の協力者として生産者ほど適格性のある者はない。多くの放浪者を生産業に吸収することはインフレ対策として生産を増強する立場からばかりではなく、道義創建の第一歩としても大切である。孟軻のいはゆる士は今日では官公吏だけに止まらず一般の給料生活者を含んだものでなければならず、これが生産者について恒心を持つ資格者であることも認められるが、生産者ほど強力でないことも亦認めなければならぬといづれにしても無職者が一番困る。道義世界の創建には就職が第一要件である。この要件は今日どうなつてゐるであらうか。昭和二十一年三月十七日の朝日新聞(大阪)から「求職俄かに激増」といふ記事を左に轉載しよう。

一ヶ月前までは閑古鳥が鳴いてゐた府下の勤勞者が急に物貸い活況を呈して來た、この一週間窓口へ詰めかけた求職者は五千百九十八名に上り、失業者氾濫の世相からいへばまだく物足らぬとはいへ、これを一月末頃の舊圓時期の週間求職人員千餘名に較べると五倍増、金融非常措置發表直後の二月十七日から一週間の千九百五十七名に比しても約二倍半と急ピツチの上昇ぶり。

顯著な傾向は之まで全然見られなかつた自由市場商人と闇ブローカーから足を洗つて出直さうとするものが千名以上に達し全體の二割六分を占めてゐること、六十歳近い恩給生活者や小金持が不勞所得だけではやつて行けぬ——と勇敢に勤勞者の門を叩きはじめた事で、年齢的には從來僅か一割餘に過ぎなかつた三十歳の青年層の求職が一躍全體の七割を示すに至り虚脱状態で低迷してゐる青年層も逐次勤勞面へ出てゐること、物を語つてゐる。求人對求職比率も舊圓時代とあべこべに求職が三倍強となり、就職難の冷酷な現實が大衆の前にはじめて大寫しされて來た。

國民は虚脱状態の故弊邪修から勤勞にめざめつゝある。無論政治に動かされてではあるけれども、勤勞意欲はおこりつゝある。道義創建の要件を充さうといふ動きは活潑になりつゝあるのである。次には職業を興へてその要件を充たさなければならぬ。これは大問題であるが、この解決なくして道義世界の創建は望まれない。

さて今日人々がすべて職業に就いて生活の物的保障を得れば、ついで社會生活安定のために道義世界の創建に協力することは明かである。そこに文化人、指導者の果すべき任務があるとすれば何であらうか。先に自由意志といふことを言つた。しかし人々は長い間自由を遠ざかつてゐた。戦争前から戦争中にかけて指導者たちは自由の何たるかを解せず、いたづらに國民をしてこれから遠ざからしめるやうに努力した。國民は自由の何たるかは知らないけれども、とにかく國賊であり敵であらうと思ひ慣らされて來た。従つて自由意志を發動させるのに慣れてゐない。文化人指導者の任務は人民のもつそのシヨリをもみほぐして自由意志の發動を容易ならしめることである。

次にそのもみほぐし方はどうであるか。詰め込み教育によつて得られた知識で物を考へるのではシヨリがある。みづからの知性によつて、與へられた雑多なものうち秩序を見出す力、それを教養といふが、この教養があつてこそ初めて人々は自由を理解し、責任を理解するのである。そこで指導者は今までの詰め込み教育を人々の頭から清掃させ、教養にめざめるやうに仕向けなければならぬ。その爲に指導するといふのに教養とはかういふものだ、自由とはかういふものだと言つて詰め込んだのでは志を飲むなと言ひながら毒を與へることになる。それでは指導者ではない。毒殺の下手人である。しかるにこの下手人が何と多いことであらうか。この點に注意しながら雑誌をよんでみよ。著書をひもとけ。そこには多くの下手人がゐることを人々は容易に見出すに相違ない。

多くの人々は日本が今道義世界再建の必要に迫られてゐると言ふ。それは事實を無視した近眼者のたはごとである。實は道義世界の創建が求められてゐるのである。さうしてその仕事の前途は多難である。しかし又光明に充ちてゐる。我々はすべてを用意をととのへてこれに邁進しなければならぬ。(昭和二十一年三月十八日)

(筆者紹介) 岡田正三氏は帝大文學士(哲學科出身)フラートン全集の翻譯者として有名なり。



Sei 財産税に關する政府案と

經濟の民主化について

齋藤榮治

政府は今回財産税、個人財産増加税及び法人戦時利得税の三法律案を決定し、聯合軍司令部に提出し許可を求めてゐる旨發表した。これによつて戦時利得を全面的に吸収し、同時に經濟再建の基礎を確立し、更に充進しつゝあるインフレを防遏せんとするものゝ如くである。

政府の意圖は、推定國民總資産四千數百億圓のうち、通常生活に必要な家具、什器、衣服などを除いた一切の財産を課税対象とし、その約四分の一、すなはち約一千億圓の稅收入を見込み、納税者も財産税のみで二百萬に及ぶといはれてゐる。其他近く兩替制度により新紙幣を發行し、從來の舊紙幣は全部無効として廢棄されるなど、その實施は正に稅法史上劃期的なものである。

財産税は個人財産税と法人財産税の二種に分れてゐる。何れも若干の免稅額と非課稅財産を規定してゐるが、本法實施により資本家地主より多額の財産を吸収し、富の不平等なる分配を匡正し、經濟再建の基礎たる民主々善化の途を拓かんとするものである。

財産増加税は第一種財産増加税と第二種財産増加税に分たれ、第二種財産増加税は第一種財産増加税に對し、補足的に課せられる。何れも財産稅法の調査期日(三月三日)を終期日と定め、終期日における財産額(終期財産額)より昭和十五年四月一日(始期日)における財産額(始期財産額)を控除したる金額をもつて財産増加額とし、若干の基礎控除額を除いて同増加額を課税対象とし

てゐる。本法實施により戦時中に備けた一切の財産を吸収し、戰爭は備からぬものゝといふ觀念を養成し以つて世界平和に寄與せんとするものゝ如くである。

法人戦時利得税は昭和十五年四月一日以後において最初に終了する事業年度開始の日より終期日(三月三日)に至る間(計算期間)の總益金より總損金を控除したる金額をもつて戦時利得と規定し、營利を目的とせざる若干の非課稅法人を除く同法人に對し百パーセント稅率を課すものである。此の場合若干の稅額控除は認められてゐる。本法實施により日本の產業經濟より軍國主義的な色彩を一掃し、民主々善的な、平和を愛好する國民として、ポツダム宣言を忠實に履行せんと意圖するものゝ

如くである。敗戦以來日本のブルジョア階級は虚脱状態に陥り生産をサボタージュし、政府は聯合軍よりの農地制度の改革や勞働組合法等に關する指令にも拘はらず全く積極性を欠き、政治力の無力さは既に遺憾なく暴露されてゐる。敗戦以來數ヶ月、一切の變革は聯合軍の指令や督促により盡しながら遂行せられてゐるが、新しい變革を妨げる舊勢力は依然として強い。

敗戦以來インフレーションは急激に充進し、これを利用して得る社會層とそれによつて虐げられる社會層との間の貧富の懸隔は益々大きくなりつゝある。大部分の國民は餓死か凍死の危機に立つてゐる。食糧難は益々益激化し、盜難、殺人事件は増加す



財産税及び個人財産増加税階級別税額並に課税價額千圓當負額表

單位	財 産 税				財産増加税第一種				財産増加税第二種			
	課税價格	稅 率	稅 額	千圓當額	稅 率	稅 額	千圓當額	稅 率	稅 額	千圓當額		
	1000圓	%	1000圓	圓	%	1000圓	圓	%	1000圓	圓		
1	30	以下10	3.0	100	60	18	600	—	—	—		
2	50	20	6.0	120	60	30	600	—	—	—		
3	70	25	10.0	142	60	42	600	10	7	100		
4	100	30	17.5	175	以下60	60	600	以下10	10	100		
5	200	35	47.5	237	80	140	700	20	30	150		
6	300	—	—	—	以下80	220	733	20	50	166		
7	500	40	152.5	305	100	420	840	30	110	220		
8	1.000	45	352.5	352	100	920	920	30	260	260		
9	2.000	50	802.5	401	100	1.920	960	30	560	280		
10	5.000	55	2.302.5	460	100	4.920	984	30	1.460	292		
11	10.000	60	5.052.5	505	100	9.920	992	30	2.960	296		
12	20.000	65	11.052.5	552	100	19.920	996	30	5.960	298		
13	50.000	70	30.551.5	611	100	49.920	998	30	14.960	299		

備考 課税價額は各種控除を行ひたる後の金額とす

も拘はらず姑息手段以外に手の下し  
やうがない程無能な政府である。こ  
得税の三新税法案は果して經濟民主  
化の本義に徹し得るものであるか否

るのみで取締ることすら殆んど出来  
てゐない。正に暴動の前夜にあるに  
税、個人財産増加税及び法人戦時利  
の政府によつて今回立案された財産

か頗る疑はしい。いふまでもなく、  
經濟の民主化は經濟機構の徹底的な  
民主化を意味する。經濟機構の徹  
底的な民主化とは經濟における平等性  
の確立、すなはち資本主義的な生産  
關係——搾取關係——の止揚でなけ  
ればならない。以下各新税法案につ  
きその内容と性格を吟味することゝ  
する。

財産税及び個人財産増加税は次表  
に示す如く三萬圓から五千萬圓以上  
に亘る十三階級に區分され、累進課  
税を原則としてゐる。  
財産税は若干の控除額を除いて二  
萬圓以上の財産に課せられ、税率は  
最低一〇パーセントより最高七〇パ  
ーセントに及んでゐる。明らかに大  
衆課税である。すなはち敗戦以來物  
價は急騰し、悪性インフレが猛烈な  
勢で充進しつゝある今日、時價本位  
による課税價格の査定では三萬圓、  
五萬圓の財産は飢餓線上にある大衆  
の生活には果して必要以上のもので  
あらうか。既に聯合軍は日本國民の  
最低生活の保證を約束してゐる。政  
府は斯様な大衆課税を設けることは  
果して妥當であらうか。又五千萬圓  
以上の財産には一率に七十パーセン  
トの税率を設けてゐるが、法人はと

もかく個人財産に於いてこれに該當  
するのは幾何あるか。極めて少數と  
考へられる。一方、五千萬圓以上の  
法人に於いては税率は一率に七〇パ  
ーセントであるから五千萬圓を超過  
すればする程、税負擔は相對的に輕  
減されることとなる。  
更に別表中の課税價格と税率をみ  
れば、階級別に前者は幾何級數的に  
累進してゐるに對し、後者は五パ  
ーセント刻みの算術級數的である。此  
ことから財産が多ければ多い程、税  
額の絕對額は増加するがしかし相對  
的には輕減されてゐることが分る。  
具体的には別表の千圓當り税額をみ  
ればよく分る。  
かくて政府の立案になる財産税法  
案は大衆課税として一般大衆を少な  
からず虚け、財産が多くなる程優遇  
される結果となる。本税實施後も尙  
資本家地主（從つて資本主義的な搾  
取關係）は存続し、貧富の懸隔は益  
益擴大再生産される。これでは經濟  
の民主主義化は計られぬ。經濟の  
民主主義化は封建的な遺制とそれ  
による資本主義的な搾取關係の止揚な  
くしては不可能である。  
個人財産増加税は別表にみる如く  
第一種財産増加額につき一萬圓程度

の基礎除除を行つた残りの財産増加額に對し、十萬圓以下は六〇パーセント、十萬圓以上は八〇パーセント三十萬圓以上は百パーセントの累進税率によつて課税されることになつてゐる。

第一種財産増加税は最初から高率で、財産税に比し重税であるのは、從來「戦争は儲かるもの」との日本人の觀念を根本的に是正し、「戦争は儲かぬもの」と感ぜしめ、以つて世界平和の維持に貢献せしむるものとして、換言すれば好戰的な軍國主義を一掃せんとする主旨に出でたるものとして當然なことである。

戦争は資本家、地主が軍閥、官僚との緊密なる結託のもとに遂行され一切の生産手段は彼等の手に握られ戰時利得は彼等の間で分配された。收斂により生産は縮少し、停滞した一切の放出物資は尙ほ彼等の間に蓄藏され、隠匿されてゐる。食糧品をはじめ各種の生活物資の不足と労働者、復員者及び海外引揚人の失業状態は大衆の生活を脅威してゐる。昂進する悪性インフレは物價高によつて生活不安を招來し、罹災者は餓死か凍死の危機に直面してゐる。これらの事實に對し今日の支配階級と

彼等の根強い諸機構は何等爲すところがない。軍は解体したが舊軍閥は依然舊勢力の維持に汲々たるものがある。官僚と官僚的な諸機構は資本家、地主との結託により民主主義革命の遂行を妨げてゐる。

かゝる情勢のもとに於いて、前記の如き個人財産増加税が實施されるとすれば、好戰的な軍國主義は一掃されるであらうか。「戦争は儲かるもの」との觀念が育成されるであらうか。單なる法律の解釋やその實施のみにては甚だ疑問とせざるを得ない。

更に本法實施により戦争による個人の財産増加額を一掃することを目的としてゐるが、始期及び終期の財産増加額の算定に於いて公正を期し得るかどうか。其間の物價指數や其他の算定資料は數年間の激變を充分に表示してゐるか否か。甚だ疑問である。

何れにしても本税法の實施は所謂新興中小資本家階級には甚だしく打撃を與へるのみならず、彼等は又元の階級に押しやられる可能性が多い何となれば大資本家個人財産増加額は相對的に小さいからである。

日本資本主義は農民の犠牲と軍國

主義による保護により發達してきたのであるから古い大資本家軍國主義及び官僚制度との結び付きが緊密であることは争はれない事實である今日の混沌たる情勢のもとに公正なる算定の甚だしく曖昧な税法を實施し、その結果大資本家に有利な條件を残すが如きは、軍國主義の一掃を目的とする本税法の主旨とは根本的に對立するものであり、ポツダム宣言の違反でもある。

第二種個人財産増加税は第一種個人財産増加税の補足的なものであり始期日において有し、其後引續き所有する土地、家屋などの終期日における價格の増加がその始期日に於ける價格及びこれに大蔵大臣の定むる割合を乗じて算出したる金額の合計額を越ゆる場合、超過額は第二種財産増加額として取扱はれる。概ね五萬圓程度の免稅點を設けられ、十萬圓以下の金額には一〇パーセント、十萬圓以上は二〇パーセント、三〇萬以上は一率に三〇パーセントとなつてゐる。

第一種個人財産増加税は大資本家の保護を建前としてゐるのに對し、第二種個人財産増加税は地主の保護を建前としてゐる。すなはち、増加

額が多い程、税負擔は相對的に輕減される傾向にあること、新興地主程大蔵大臣の定むる割合を乗じた金額の合計額（從つてその超過額）は大きくなる可能性が多いからである。何となれば、戦時中農産物を農民より強制的に供出せしめ、官僚的當割制と配給機構の不備は農産物の昂騰を招來し、交通運輸機關の制限強化は農産物の出廻りを阻害した結果、

便利な近郊地の耕作が盛んとなり、從つて地價は近郊地に於いて益々昂騰し、資本家的機構の對象となり得た。一方都鄙の物價の歸きはこの傾向を助長した。かくて近郊の空閑地は開墾され、土地は細分され、新興小地主は續出し、本税法の對象となる財産増加額はこの方面に於いて多くみられるであらう。一方僻遠地の大地主はこの期間中莫大な利得を收めたが、土地、家屋の値上りによる財産増加額は相對的に案外少く從つて税負擔は輕減される。

かくて農村の土地問題は根本的に何等の變革をみないであらう。しかるに日本資本主義發達史上、農村は軍國主義の温床であり、有力な支持者であつたことは疑ひない事實であり此ことは農村に於ける土地所有關





# 無政府主義小見

白井新平

## 無政府の觀念

言葉といふものは人間の意志を疎通する便利な道具であるが、また實に不便なものである。言葉それ自体は絶対固定した概念でなく、これを用ふる個人、集團、時代によつて異なるものである。言葉はそれを表象する字義が問題でなくして、それが表象する概念が問題である。

英語でコンミニユニズムと云ふ言葉を誰れが共產主義と譯し始めたか疑問であるが、一つの社會形態を意味するコンミニユニズムと云ふ外國語がたゞ財産關係だけに極限されて私有財産制の對照概念と見られるところに、コンミニユニズムの理解にいらざる混亂が起きるのである。

無政府といふ東洋語は今日直ちに

無秩序、混亂を意味するやうに解釋され勝ちであるが、これは強權主義者達が無政府と云ふ言葉に押しつけた勝手な概念であつて、無政府と云ふ言葉それ自体には何等かういふ意味は含まれてをらず、無政府主義者と自認するものは、この言葉のもとに全く違つた概念を表象してゐる。もしも無政府がたゞに無秩序、混亂を意味するならば、それを社會組織の理念とする無政府主義と云ふイズムが、どうして一つの社會理想として、解放思想中に重要な位置をしめ、世間一般からあれほど憎悪と罵をなげかけられながら、しかも人類の最も徹底した進歩的思想家の間で、人類の理想の極限として高く評價されることがあり得るであらうか。

政府といふ言葉の法學的な意義は一點に統一されたる權力である。この統一されたる權力のあり方が、種の政治形態を區別する。社會の政治のあり方に對蹠的な二つの種類がある。社會の全成員の協同の上にある政治と、全成員の意欲とは別個に社會の外側から押しつけた政治との二つである。前者がデモクラシー政治のあり方であり、後者が專制政治のあり方であることはいふまでもない。後者の政治のあり方のうちで、その權力が、ある個人に掌握され、それが一家系に獨占され、世襲的である場合に、それを君主制とよぶ。この權力の把持者が一定の階級からのみ選出される場合に、階級支配國家とよび、選舉制による個人の權力把持である獨裁の場合と、數人の寡

頭政治である合議制の場合とがある。この何れの形態を問はず階級獨裁である。有史以來「在來一切の社會の歴史は階級闘争の歴史である」といふ點からいへば、總ての有史以來の社會の歴史は階級獨裁の歴史であるこの意味に於ては古代ギリシヤのデモクラシーといへども、自由地の階級獨裁であつて、そのもとに支配される奴隸階級があつたことを忘れることは出来ない。それ故にまた、過去の代議政治はブルジョア階級のデモクラシーであつて、形式はとも角社會形態からいへば、ブルジョア階級獨裁政治であるとも云へる。古代のデモクラシーは階級の存在を前提としたが故に、デモクラシーといひながら階級獨裁であつたのが當然である。だが近代デモクラシー精



神は、法律の前に萬民が平等であることを前提としてゐるのであるから萬民の政治、社會全成員のデモクラシーでなければならぬ。しかし過去の歴史的事實は、代議制度といふブルジョアデモクラシー形態は、最初から全成員のデモクラシーを實現すべく、企圖されたのではなく、奴隸の存在する、所有財産の條件のある制限選挙から、漸次普選へと擴大されたのであるから、階級獨裁形態から轉化したものであることを認めざるを得ない。一つの社會の支配權力階級といふものは、その支配と權力の安全性が保證されない限り、決して政治上の讓歩をするものでないことを歴史は教へてゐる。制限選挙が、どうして、普選になつたかを考へて見るといふ。ブルジョア支配が選挙權を擴張してもなほ安んじたりと見定めてから、普選は實施されたのである。我々はこの歴史的事實を銘記して置く必要がある。

現在の普選の形式は萬民のデモクラシー實現の可能な形態を一應備へてゐるやうにも見へる。だが實質的には階級獨裁しか行つて來なかつた故に若しこの現在の代議政治を通じて所謂プロレタリアが政權を握ると

するならば、それは殊更にプロレタリア獨裁を宣言しなくても、又今度の共產黨の聲明のやうに、階級獨裁を否定したとしても、それは所詮階級獨裁の型から逃れることは出來ないしたがつて、この代議政治を認容する以上は、階級獨裁を是認するか否かの議論は、この意味に於て全く無意義な空論といはねばならない。

ビープルとは人民とよんでも民衆とよんでもよいが要は、その意味する内容であつて、社會の全成員を包含するものでなければならぬ。社會の全成員が、社會の全成員で自らする政治、それが近代デモクラシーの眞精神であるとすると過去に階級支配の機關であつた代議政治制度を通じて、これをたして眞に實現することができらうか。代議政治が眞のデモクラシーを實現する方法として自由なる民衆が創造した政治制度であるとしても、これはその目的に對して實に不完全な方法であるといふことを、認めざるを得ないであらう。

この代議政治そのものに對しても向けるのである。政治の權力が一點に集中されることは、たとへこの行使者がいかに有能で善意あるものにしても、危険性がある。このために、貴族政治に於ても獨裁を排して合議制が主張される、諸種の利害の衝突、意見の對立を緩和し、統合調和をさす目的から議長を置き、代辯者、代表者を定めることも必要である。しかし主權が一人の個人に委託させるのであつてはならない。主權は最後まで各成員に確保されなければ、眞のデモクラシーの實現はあり得ない。民主主義と云ふことは人民主權である。人民主權のあり方について、君主に對する人民といふ觀點からすれば、人民の側にあればこれが人民の側のどこにあつてもよいことになるがデモクラシーの眞精神からすれば、人民の側のある特定の個人にあつても、ある集團ある階級にあつても、眞のデモクラシーではない主權が人民の側にあつて、しかも、その人民の中に於てのあり方が平等になければならない。主權が人民の間に平等に分割されると云ふ考へ方も正しくない。一個の主權が分割されると云ふ考へ方のはかりに、主權は成員各個人にあつて、その

連合協力の上に社會の政治があらねばならないのである。此の各成員各個人の主權は、最後まで各成員間に確保され、讓渡、委託されてはならない。一點に集中されたる主權、一個にして不可分なる主權の觀念に對して、成員間に平等に留保されたる主權、此の連合、協同の形態としての社會共同体、これが社會の政治のあり方であり、デモクラシーの眞に目指す人民主權の意義でなければならぬ。それは權力の統一体としての政府の觀念でなく、政府なき政治のあり方、すなはち無政府であり、そこには社會事象の調和統合体としての行政があつていはゆる政府がない政治形態、これが無政府の眞の意味である。總ゆる社會理想の窮極の目標はこゝにある。總ての政治理論はこゝへ到達してゐる。權力主義的である、マルキシズムといへども、これを目標とせざるを得ない。エンゲルスはこの状態への過程を次のごとく説明してゐる。「社會の諸機關に對する國家權力の干渉は各方面に對して段々無用になり、遂におのずから消滅する。人に對する支配がたゞ事物の世話と生産過程の處理に變る。國家は廢止されるのでなく、死滅す



るのである」と。無政府主義者とマルキストの相違はその目的でなくして、その過程である。無政府の概念は社會の公敵でなくして、總ての解放思潮のそしてデモクラシーの、人類の目的であることは明かである。

### 無政府主義の理論

無政府が凡ゆる社會理想の最後の目的であるにしても、その實現の過程に於て手段と方法が異なる。廣義の社會主義諸思想の中でこれを大別して強權的社會主義と、非強權的社會主義とに區別できる。今前者を代表する主張がマルクス、レーニン主義であり、俗に共產主義といはれてゐる。後者を代表する理論の尖端に立つのが無政府主義である。將來の財産形態に關する見解については、ともに共產主義(正しくは共同体主義)を目指してをりそれ故に無政府主義はまた無政府共產主義によつて代表されてゐる。

ではその過程に於ける理論に於て如何に異なるか。マルクス主義の公式に従へば

從來の階級對立によつて運轉した社會は國家を必要とした。然るにその國家が遂に全社會の本當の

代表となる時には、それは自ら無用の長物となる。特殊の領壓力、即ち國家の必要がなくなる。國家が眞の社會の代表として出現するその第一行爲たる——即ち社會の名に於て生産機關を占有すること——それが同時に國家として最後の獨立行爲である。(エンゲルスの「社會主義の發展」より)

かく過去に於て階級支配の機關であつた國家機構を社會と混同することにより、社會の名において國家に生産機關を集中し、かくして國家を死滅させることができる云ふ考へ方無政府主義者はこれに對して、斷乎として反對する。その理由は、新しい經濟組織は、舊い政治機構の中に容れることは出来ない。新しい酒は新しい皮袋を必要とする。もしも我が建設すべきコンミニニズム(共同体主義)の社會が生産機關の共同的所有の社會であるとするなら、そしてその政治組織が無政府であるなら、それを實現する方法も、國家機構を利用した、政府と云ふ政治組織をもつてしては不可能である。經濟的變革と同時に政治的新制度をもつてしなければならぬ。それは各共同体の獨立の權威を保持した自由

連合の上に立つ、更に大なる共同体即ち「地域的ならびに職業的な種々の團體か、生産と消費のために、又文明人の無限に多様な慾求や希望を満足させるために自由に結成されたこれら團體間に結ばれた自由契約」(クロボトキン「無政府主義概論」)でなければならぬといふのである。

マルキストはプロレタリアが階級的に結成されて、その独自の政黨を發達せしめ、それが資本主義社會内にあつて、漸次政權に近づき遂に政治權力を奪取して、階級獨裁を通じて社會主義を實現しようと云ふに對して、無政府主義者は、かゝるプロレタリア政黨による社會主義の實現を、不可能なる夢と批判する。舊支配權力と、被搾取階級との決定的な闘争は、革命を通じてのみ實現することが出来る。舊支配階級はプロレタリアの團結、その政治的な攻勢、プロレタリア政黨に對して、プロレ

テの譲歩であり、最後の一線では、彼等も最後の餘力を盡して、暴力、非暴力一切の手段を用ひて、被支配階級に反噬して来る。これが革命の勝つか負けるか、成るかならぬかの決定的瞬間である。この勝敗を決するものは、民衆の力以外にあり得ない。民衆の力、然り、民衆が、多數のその集團が、その共通の目的のもとに協同するときに生ずる能力、その創造的な建設的な、しかるが故にまた一面破壊的な能力を信じないならば、社會革命はあり得ない。無政府主義者は、かく革命を認識するのである。

無政府主義者にとつて、革命とは社會革命である。社會革命とは、單なる政治革命でなくして、同時に經濟革命である。それ故に強權的社會主義者が政治革命を先づ目指して、次に經濟革命を政治を通じて實現しようとするに際して無政府主義者は、凡ゆる社會生活の基底である經濟組織(唯物史觀に於ては同心、たゞ無政府主義者は辯證法を採用しない)の直接の變革を目指す。經濟革命は勿論同時に政治革命でなければならぬ。無政府主義者が政治闘争を拒否するといふのは、いわれの

ない誤解であつて、經濟的變革は同時に政治的變革である。無政府主義者こそ眞に政治革命を意圖するのであり、舊い政治形態に新しい政治形態を代替することをもつて政治を變革するのである。この點強權的社會主義の方策は、政治を變革するのではなく、同じ政權を置換するのであり奪取するのである。無政府主義者が勞働者、農民、被壓迫民衆の闘争の手段として、蔑視するのは、この政權奪取のための政黨運動である。

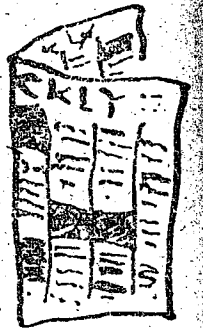
では無政府主義者は政黨運動によらずして何によつて、政治革命でない社會革命を將來さすか、それは無政府主義者の見解によれば經濟的直接行動（政治を通じないと云ふ意味に於て）であつて、勞働者の團結とその革命的諸團體の總罷業、及び能動者の創造的、先驅的行動であるといふ。しかし革命といふものを普通に解釋されるが如く、安價に容易に考へない。それはその社會の成員の意志も重要な役目をもつが、それだけでは可能でなく、それが遂行さるべき客觀的情勢がそなわらなければならぬ。それが自ら意圖するだけでなくまた客觀的に與へられなければならぬ。民衆の行動をもつて

の總躍起の瞬間である。そういう情勢の備らない時の政治闘争的ゼネストはたゞに敗北に終るだけであり、少數者の創造的暴力も政治革命は將來し得る一原因となり得ても、社會革命にまで發展せしめ得ることはできないと考へる。それ故無政府主義者を暴力革命の使徒と見ることはいはれないことである。

マルクスの認識は無政府主義者を自して空想的で、非現實的であると云ふ。しかし無政府主義者をもつていはしむれば、マルクスの公式は神話的で非建設的であるといふ。なぜなら、マルキシストは革命といふこと、革命の目的、未來社會の形態、即ち現代の矛盾にみちた社會制度に替るべき、新しい社會形態、經濟的・政治的形態についての明確なる概念を持たない。それは設計圖ではない空想でもつて作りあげた未來社會の明細な設計圖を用意することは初期のユートピストの仕事であるが、否定せんとする現社會に替るべき、新社會の經濟的、政治的基本構想を用意せずして、現社會制度を批判することも、否定することも出来ない。無政府主義者は指摘する。ところがマルキシストは、辯證法的唯物史觀と

剩餘價值説の經濟理論をもつて、資本主義は共產主義に必然的に發展するのだと云ふことだけを立證しようとしたのである。たゞ一つの經濟制度が發展するのだと云ふことなら辯證法的唯物史觀は必ずしも必要でない。發展、流動、轉化はもの一般の普遍的性質である。資本主義の發展が、資本主義制度を自己崩壊せしめて、ブルジョア財産の廢止の上に、共產制を作り出す。こゝまでがマルクス・エンゲルスが證明しようとして、また證明し得るものとして作りあげた經濟學説である。私有財産に對する共有財産、この觀念だけがマルキシズムの革命理論に明確なことであつて、いかなる共有形態であるかと云ふことに就いては何等の概念が規定されてゐない。それ故にその革命理論は政治革命が社會革命に轉化する段階になると、理論的眞空状態を呈する。たゞ資本は固有にして、名目的に從來の階級が廢止されて、國家が全社會の代表として出現し、階級が全社會の代表として出現し、階級がエンゲルスが、それ故に國家權力は死滅するのだと云ふときに、それは大きな理論的飛躍をしなければならぬ。階級獨裁權力が名目的に

無意義となつても、かういふ政治機構に於ては國家權力といふものは、社會成員の各個から離れて、別個に外から大きく支配力をもつてゐる。なるほど、從來の資本家、プロレタリアと云ふ階級は廢止された。しかし働くものと、それを管理する國家官僚といふものとは二つの階級單位である。階級が廢止されたのではなく、舊い階級が廢滅しても、新しい統治階級が出現したのである。それは知識階級であり、いま、ブルジョア社會で中間階級といはれた階級の糧頭である。そこには貸銀制度は廢止されず、生活程度の恵れたる階級と然らざる階級との差がその職能によつて立てられてゐる。何時それがどうして、無政府の理想の實現に導入されるか。マルキシズムはこれに對して何等の理論を提ししない。たゞ生産が飛躍的に増大すれば、總ての待遇が改善されると。これは植民地搾取の上に立つ先進資本主義が、その利潤が幅のある限り、勞働者の生活を改善し得ると云ふに等しい。生産手段は名目的に國家の所有であり、その國家は社會成員が構成するから成員各自のものだといふ形式的な詭辯なら、天皇制國家に於ても可



# 經濟時評

白神勤



## 經濟緊急措置の反動性

(一) 「預金封鎖を断行してインフレを抑制せよ」

と云ふ一般輿論の要求に應じるかの如く政府は突如經濟緊急措置を實施して預金の封鎖と新圓の發行を断行することになつた。インフレに悩んでゐた都市の小市民の一部では政府の措置を歓迎してゐる。而しこれによつて齟らされるものは金融資本の救済であり、人民の救済ではな

一步前まで、しらぬ顔してきた政府が銀行危しとみるや金融資本にせき立てられて泡を喰つたやうに緊急措置を講じ銀行を救済したのである。

こゝまで放置した責任は兎も角、こゝまで放置した以上銀行の徹底的整理を行ひ小額預金者のみを別個に救済するのが本當に人民の利益を代表する政府の爲すべきことである。ところが、金融資本の利益を代表する政府は小額の預金者を犠牲にして銀行救済に乗出したのである。

## (二)

第一にこれでインフレが抑制し得るかと云ふに生産が破壊されたまゝの現在、通貨のみ抑制してもインフレを抑制することは不可能である。

經濟破綻は戦争の結果として不可避免的に生じてきたのであり、インフレはその反映に過ぎない。従てかゝる經濟破綻を資本の犠牲に於て徹底的

に整理し新しい再生産機構をうち建てるのがインフレ抑制の根本對策である。

物が高いといふことが問題ではなく物が生産されないといふことが今日の根本問題である。これを解決せずして通貨などなに收縮してみてもインフレは抑制されず、國民生活の安定も望み得ない。

インフレによつて刺激されてゐた町工場の生産が停止し、インフレによつてどうやら生活を維持してきた露店商人を失業させ、その結果社會不安を増大させるだけで國民を救済する効果はどこにも望めないのが今回の措置である。

## (三)

第二に今回の措置によつて都市民は再び食糧難に悩むであらう。閣取引と云ふが、その實官僚統制の不合理と缺陷を是正して何とか國民を飢

能である。天皇は我々の國家の  
ふ天皇制日本國家は一つの全一なる  
共同体であるが故に、總ての財産が  
國家、即ち天皇の所有だといふこと  
は、各自の共有財産といふことだと  
説明出来る。しかし民衆はこれが諒  
解であることを知つてゐる。國有鐵  
道は我等の國家の所有だが、果して  
それに従事する職員は、これを自分  
の生産機關と考へ、乘客はこれを自  
分の鐵道と考へるか。名目的、形式  
的な問題でなくして具体的な現實と  
して、これをどう所有し、感じ、運  
行するかの問題である。社會主義國家  
二十年の失敗と成功の歴史は、これ  
を透徹して觀察するなら、其失敗は  
社會主義實現の方向に於ての失敗で  
ありその成功は國家資本主義的方向  
に於ての成功であるとも見られる。  
無政府主義者は革命の内容について、も  
つと具體的な諸基調を提言してゐる  
生産手段の共有形態は、地域的な共  
同体、職能的な協同体、生産の爲の協  
同体、消費の爲の協同体、各種の協  
同体内の成員各自の社會的財の具體  
的な共有、そして之が生産的に、又  
消費的に縦からも横からも、裏から  
も、表からも、複式網狀組織に於け  
る結合を通じての全一共同体的共有

から救ふてきたのが闇である。官僚統制の不合理と缺陷を修正することなく再び全面的官僚統制によつて食糧が確保されるかどうか今後の事實が證明するであらう。

都市の産業を再建せずして農村との圓滑な經濟交流が行はれる筈はない。農民だけが物を生産してこれを紙幣で取り上げやうとすれば高いのは當然である。紙幣を裏付ける工業製品の生産が復活してこそ農民も喜んで紙幣を受け取り安定した價格で農産物を引渡すであらう。これが經濟の鐵則である。この努力を爲さずして農民の道義心に訴へたり或は權力を用ひて供出を増加させようと云ふのは不合理極る方法であり、かゝる不合理な權力で強行せんとするのは封建的なやり方である。經濟再建の唯一の道は生産の増大である。これをなさずして通貨を收縮すれば價格が下ると思ふのは笑ふべき無智である。なるほど買溜め品は下がるかも知れないが、肝腎の食糧は下らない。食糧が安定しない限りインフレの解決はあり得ない。

#### (四)

現在尙紙幣に幾分の價值があるのは紙幣に對する習慣的信用と將來生産が回復して物資の裏付けが出来る

だらうといふ漠然たる期待があるからだ。この習慣と信用が残つてゐる間に生産を回復しなければ如何に通貨を操作してもインフレの安定は望み得ない。今回の措置によつて一時的に通貨を收縮しても半年すれば元の通りであらう。この時再び強權によつて通貨を收縮すれば國民はもはや通貨に對する信用を失ひ、全面的物々交換が現れるであらう。これを避ける途は生産の回復以外にないが政府はこれについて如何なる用意と自信があるか。

眞にインフレの犠牲を最少限度に止め國民生活の安定を期するならば戰爭の結果である通貨の氾濫を資本の負擔によつて徹底的に吸收し、此資本を生産の再開に放出して物資の増加を圖る以外にない。勿論この場合もインフレを完全に抑制することは不可能である。戰爭による經濟破壊が客觀的事實である以上如何なる方法によつてもインフレを完全に抑制することは不可能である。問題はインフレの弊害を最少限度に喰ひ止めて、最も短い期間に生産を回復して新しい經濟安定を齎す所にある。インフレ抑制に名を籍りて國民生活を犠牲にし小資本の犠牲に於て大資本を救済せんとするのが今回の緊急

措置である。

#### (五)

最後に最も注意を要することは、破綻に瀕した金融資本を救済した政府はさらに軍需補償問題を金融資本に有利に解決して、金融資本の地盤を安定させ日本産業に對する金融資本の支配權を再び確立させやうとしてゐることである。こゝに今回の非常措置の反動性がある。食糧問題解決の能力も自信もない政府が、突如として非常措置を採つたのは金融資本の再建といふ使命のためである。金融資本は救はれ再び國民經濟の王座を占めるであらう。それと共に國民は再び官僚統制に悩まされ自力救済の途を閉がれることになるであらう。これが經濟緊急措置の正体である。

最初から日本の民主革命にプレトキをかけるために登場して來た幣原反動内閣にとつては金融資本の再建こそその大きな使命であり、生活に悩む人民の救済は第二の問題なのであるから、その内閣の手によつて今回の如き措置がとられたことは當然であると云へやう。人民を救ふものは人民の利益を代表した政府によらなければ不可能である。政府に對して過信する傾向のある我々日本人にとつて今回の措置は大きな教訓である。

さうしなければ眞の共同所有の實際も、實感も、運営もあり得ないと。

これが否定される國家共有形態に於ては、各成員は形式的には總てのものをも所有し、實質的には何物をも所有してゐないこととなる。さうであつては革命の意義がない。若し眞の社會革命が以上の如くであるとすれば、革命は具體的に、經濟的にも、政治的にもそれを目指して突進しなければならぬ。そしてそれは無政府主義者の夢でなくして、現にこの資本主義社會に、斯る共同体組織が新社會の胞芽として準備され生長しつゝある。労働組合に、消費組合に、農民の生産販賣協同組合、文化人の自由なる結社に。そして人類はその生存の危機に際しては常にこの協同體的觀念を強めかゝる組織を結成して行くことによつて、連合し、協力し、相互扶助して來たと。そして、革命への準備は、被支配、被搾取階級のこの傾向を助長すると同時に、舊支配との決定的隙間に於ける民衆の創造的能力を阻止し、革命を繰返せしめないために、明確なる自意識を醸成し、日常の舊支配との闘争を通じて、闘争の自信と、民主的組織の運営に習熟することである。以上のことく無政府主義者は、革

## 論 本 資

## 人民講座 (1)

## 丘 大 夢

## インフレとインチキ

敗戦直後、新宿の街頭にすらりとならんだ青空市場をあるいてゐますと、眞鍮の煙管を賣つてゐた露店商人が、いきなりわたくしにむかつて大ごゑをはりあげました。

「このインチキの……あゝいけねえ」

こゝで商人はきまりぬるそうに、ちよつと頭をかいて、はじめから言ひなほしました。

「このインフレのはげしい時代に拾五圓たア安いもんだ。且那一本いかゞです。」

むかしだつたら五十錢もしないこんな安物の煙管が、いまでは三十倍の値段で飛ぶやうに賣れるんですか

ら、世の中もずるぶん變つたものだとおもひました。

また先日ある専門學校で入學試験の口頭試問に、「インフレとはなにか」ときいたら、受験生のなかに、「ハイ、國民がみんなインチキをやつてフラフラになることであります」

と明快な迷解答をやつた者があつたそうです。さらにおどろたことにM・P(エムピー)とはなにかといふ質問にたいして「エムペラーのことです」と言下に答へてすゞしい顔をしてゐる受験生もあつたのと。インフレとインチキを同じものにかんがへ、アメリカの憲兵(ミリタリー・ポリス)と日本の天皇(エムペラー)とまちがへて平然としてゐるいまの中學生が、將來の日本を

背負つて立つのかと思ふと、ちよつと暗然たらざるをえないではありませんか。もちろんこの受験生はその學校に入學できなかったそうですが、ところでインフレーション、すなはち「水ぶくれ」といふ言葉が、なぜ通貨膨脹といふ意味にもちひられるやうになつたかといふ事をせんさくしてみますと、まんざらインチキとぜんく無關係でもなさそうです。

なんでもむかし、スコットランドの市場で牛の値段をきめるのに目方を單位にしたところ、そこはぬけぬけのないスコットランドの商人のこゝ牛を市場へひいてゆくまへに塩をうんとなめさせました。塩をなめた牛は咽喉がかわくものだから水をがぶがぶ飲む。いはゆる牛飲といふやつです。そうすると牛のあの大きい胃袋がインフレーション(水ぶくれ)されて目方が重くなり、高い値段で賣れるといふ算段になるのだそうです。ところで前の第一次世界大戦のときに、ドイツでは紙幣を濫發していはゆる通貨の膨脹をきたし、他方物資が缺乏したために、物價は戦後うなぎのぼりに昂騰し、ついに一兆倍にまでなつて、國民經濟は破産したといはれてゐますが、この現象はまた、戰勝國たるイギリスやフランス

命とその方法を解釋してゐる。

この無政府主義の思想は學者の齋から生れたものでなく、その講壇から生れたものでない。それは一つの學說の結論でなく、十九世紀のプロレタリアがフランス革命の經驗と第一インターナショナル(國際労働者協會)内に於ける中産階級的思想強權社會主義者との鬭争を通じて闘ひとつたプロレタリア自身の思想であると云ふところに、その強味とマルクス主義とは異なる特徴をもつてゐるそれは革命に裏切られたプロレタリア、無産者政治運動の幻想と諛辯に相憎つたした労働者の思想、そこに文學的、藝術的、觀念的無政府主義と異なる近代無政府主義の特徴がある。

しかしだからと言つて、無政府主義は科學的でなく、その認識論、哲學觀、經濟學を持たないと云ふのは無政府主義を知らないもの、持つ歪曲されたる偏見であつて、無政府主義こそ總ゆる近代科學、近代哲學の精神を集めたもの、その科學的結論によつて立證される原理であり、その独自の歴史哲學と、經濟學と、社會學をもつてゐることを明示したのが無政府主義の頭腦と稱される章命家クロボトキンの業績である。

これ等の諸見解については、また何れ觸れる機會もあるかと思ふ。



等にも多かれ少かれ發生して、各國民はひとしく通貨膨脹と物價騰貴になやまされました。

そこでこの現象になんとか名前をつけたいと學者先生たちが頭をひねつたあげく、あの牛の水ぶくれからヒントをえて、それをインフレーションと名づけたといふ話です。そして日本のものぐさなジャーナリストたちが、インフレーションでは長すぎるといふので、終りをはしよつてインフレ、インフレと書くものから、その表題だけしか讀まぬ中學生が、インテキでフアラフアラになることになつたのです。

### 日本のインフレ

ところで敗戦後の日本ではどうでせうか。大正時代に一升五十錢になつたといつて全國的に暴動を起した米の國民相場がいまでは七十圓から百圓までする。靴が一足七百圓から八百圓、みかんや鱒が五つか六つで十圓、むかし一厘のあめ玉一本が一圓と、物によつてさまざまですが、大てい物價は十倍から百倍、千倍に騰貴してゐます。しかしこれを前大戦後のドイツ物價の一兆倍の騰貴にくらべれば、まだ、日本のインフ

レは赤ん坊どころか、アミーブ程度に微少なものです。けれどもアミーバだといつてばかりにはなりません。ほうつておけば赤痢にもなれば、命とりにもなります。だからこれをいまのうちに抑制しないと、日本の經濟もインフレの洪水で、太平洋艦隊と同様に海底のむくづになつてしまふでせう。いんかんは遠からずです。現に今度の大戦でも、ギリシヤなどは物價が十兆倍になつて、インフレの世界記録をつくり、そのため國民經濟は文字どほり瓦解してしまつたではありませんか。

こんにちにはゆる金持階級といはれるひとたちは、財産税がこわいといつて財産の隠匿と分散に右往左往してゐますが、財産税といつたつてたかがしれてゐます。高くたつて七割か八割、大ていは二割か三割程度の税金をとられるだけで、何百萬圓何千萬圓の金持ちなどは、こんな税金を拂つたところで、残りの財産で孫子の代まで遊んでくらしてゆけるのです。

しかるにインフレで物價が一兆倍になつてごらんなさい。現金を一億圓もつてゐましても、それは一圓の一萬分の一、すなはち錢、厘よりも一桁下つた一毛にしか値ひせぬことになります。九牛の一毛と申します。一億圓ですら一毛になつてしまふのですから、千圓や萬圓のはした

金などは、電子顕微鏡でのぞいたつてわからぬくらゐの小さな類となり文字通り、札束はほご紙になつてしまふでせう。ドイツでは、紙幣はあと紙にも役立たぬといふので、燃料として暖爐でくべたり、子供の紙細工に使はれたりしました。

こうなれば財産税どころの騒ぎじやありません。國民大衆は、とくに勞働者やサラリーマンは文字通り、窒息し、あるひはペタペタ街頭で餓死してしまふかもしれせん。現にわたくしは、インフレ下の濟南で、支那の洋車夫が、街頭でぼつたり倒れて餓死したのを目撃したことがあります。氣の毒に死體は半日ばかり街頭で野ざらしとなつてゐました。ですから日本の民衆を餓死させないためにはなんとかこのインフレを抑へねばなりません。そこで幣原内閣が、あはて、預金の支拂制限をやり、新圓を發行して、インフレ退治にとりかゝつたのですがこれだけではどうして物價の騰貴を抑へることはできません。物價の騰貴は物の面に、生産の面に根本原因があるので、けつして貨幣の面に原因があるのであります。生産力の低下による物の缺乏が原因で、貨幣の増大はその結果なのです。

### インフレの原因

こんにち日本の經濟學者も、いや

むしる世界の一流の經濟學者といはれる人たちがすらも、この原因を結果をとりちがへてゐます。その代表的な學説はいはゆる貨幣數量説で、これは古くはボーグンや、トマス・マンや、哲學者のジョン・ロツクや、ヒュームの貨幣學説にあらはれ、リカードやジョン・ステュアート・ミルなどの經濟學説にもべられてゐますが、現代のアメリカ經濟學界の第一人者といはれるアーヴィング・フィッシャーすらが、「貨幣の購買力」といふ龐大な書物を著してこの學説を數學的に體系化しようとしてゐます。このフィッシャーの學説が日本の經濟學者や金融理論家によつて金科玉條のやうに尊重せられて、物價の變動は貨幣の數量の變化によつて支配されるなどといふとんでもない錯覺におちいつてゐるのです。

貨幣數量説によると貨幣をあるひは紙幣を、どん／＼發行すれば貨幣のねうちが、すなはち貨幣價值が下落する。そこで貨幣の購買力が低くなり、したがつて物價が、すなはち商品の價格が騰貴するといふのです。まへにものべましたとほり、この學説はまつたく、原因と結果とをとりちがへてゐるのです。いまから八十年もまへに、マルクスは資本論の第一卷のなかで、はつきり貨幣數量

説の誤謬を指摘してゐます。かれはこの學説は一つの「幻想」であつて「馬鹿々々しい假説に根柢を置くものだ」と喝破してゐます。(カウツキ一版八二頁、高島譯九一頁)

あへてマルクスによらなくても、少しく今日のインフレーションの根本原因をかながへてみれば、その真相は誰にでもわかるはずで、すなはち今日の物價騰貴の根本原因は、戦争による日本の富の大量的消耗と空襲による産業資本の徹底的破壊、したがつてまた労働の生産力の急激な低下による商品の價値の騰貴であつて、通貨の膨脹はその結果にすぎないのです。

戦争中にやれ大砲だ、やれ弾丸だやれ軍艦だ、やれ飛行機だ、軍部と政府は火のつくやうに騒ぎだてて、紡績機械その他の平和産業の機械を鑄つづし、軍需産業にもつてゆき、また農村の青少年をかりだてて軍需工場に低賃銀で強制労働に服させ、その製品をつぎからつぎへと氣前よく太平洋へ棄て、しまひました。進るよりも棄てる方のテンポが速いのですからたまりません。軍需品はたえず品不足です。そしてまた軍需品を作る機械や原料も拂底するその値段も高騰する。そこで金融機關からどん／＼資金を借りて資材を買ひあふる。しかしそれでも資本の生産力は軍需の需要に追いつけない

勢ひ軍需品の價格は騰貴する。そこで國民から税金をとりだて、軍費をまかなふ。増税ぐらゐではとうてい間に合ひませんから、公債を發行して賣出す。民間へ割當てたり、公募したりしてゐるのは間に合ひませんから大部分を日本銀行へ押しつけて、それを擔保に紙幣を濫發させるこの紙幣で、昂騰した軍需品を大量に買上げて、大急ぎで大陸や南方や太平洋へ棄てる。こんなことを八年間も間断なくくりかへすのですからたまつたものじやありません。わたくしたちの祖先が、粒々辛苦二千六百年もかゝつて蓄積した富の大半は太平洋の藻くづと消へ、それに代つて紙きれが、紙幣や公債が、國內に氾濫いたしました。すなはち軍需品の價格暴騰の結果として通貨は膨脹したわけです。かつして通貨が膨脹したために軍需産業の生産力が低下し軍需品の價格が増大したのではないといふことがわかります。他面、平和産業は極度に壓縮され機械は鑄つづされ、原料は收用され労働力は徵用されました。平和産業に残つたのは老人と片輪と病人だけでした。ですから労働の生産力はぐつと落ちるのは當然でせう。これまで一時間で製造してゐた物が十時間も、二十時間も、場合によつては一月も二月もかゝる。あるひはぜんぜん生産できなくなる。したがつて食糧や衣服や住宅や、その他の生活必需品の値段は騰貴する。もらつた給料や賃銀は全部生活費にはき出さねばならない。すなはち、こゝでも、物價騰貴の結果として貨幣の流通量が増したので、かつして通貨の流通量が増大した結果、民需産業の生産力が破壊されて一般物價が騰貴したのではありません。

かへ、加へて、連日連夜の空襲で、一回の空襲ごとに一つの都市は灰となり、何百の工場も、何萬の住宅も一夜で地上から消えてゆく。燃えた軍需工場や、沈んだ船舶の補償に政府は巨億の紙幣をまきちらす。こゝでも富は失はれ、資本は破壊され、その結果として通貨は膨脹したのです。かつして通貨が膨脹したために都市が焼け、船舶が沈んだのはありません。

敗戦後はどうでせうか。戦時中に隠匿されてゐた物資が、青空市場にいろ／＼なルートを通じてあらはれてきました。そしてその値段は大に戦前の價格水準の十倍から百倍になつてゐる。そのわけは、戦前において協業や分業や機械の使用によつて、比較的安く生産できた生活物資が、敗戦後の今日ではほとんど生産不可能となつたからです。生産工場は焼け機械は破損し、原料は入手できず、生産の機構は全面的に解體したため、労働の生産力はいちどるしく低下した。したがつてその物の再生産に、従来の十倍ないし百倍の労働を必要とするにいたつたのであるから商品の價値は統制の枠がはづされるとともに一せいに騰貴した。そこで罹災者や復員者は、やむにやまれずなげなしの見舞金や手當を投げだして生必需品を購買し、また金持ち連中は、將來の一層の値上りを豫想し手持資金を動員してこれを買ひあさりました。すなはちこゝでも生産力の低下によつて商品の價値は騰貴し、この騰貴の結果として貨幣の流通量は増大したのであつて、反對に通貨の増大が、生産條件を悪化し物價の騰貴を招いたわけではないのです。

かくのごとく、いづれの段階から見しても、物價騰貴の根本原因は生産條件の悪化、労働生産力の低下といふ生産過程の面に存するのであつて、貨幣の流通量の増加は、流通過程における從屬的な、隨伴的な現象にすぎないといふことがわかります。

### インフレと日本經濟の再建

したがつて現在のインフレーションを阻止し物價の暴騰を抑制するには、たんなる貨幣の側の對策だけでは不十分であつて、それに對應して生産條件の改善が企圖されなければ

なりません。生産条件の改善に基礎を置かぬすべてのインフレ対策はかならず失敗をはるであります。ところで、生産条件の根本的改善は、はたして現在の資本主義的経済機構のもとにおいて可能でありませうか。

太平洋戦争そのものが、日本資本主義経済の矛盾と行きつまりを打開するために強行されたところの植民地市場獲得の帝國主義戦争であつたといはれてゐます以上、その企圖が敗戦によつて挫折した今日、惨敗の廢墟のなかで再建されるべき、永遠の平和國日本の経済機構が、ふたたびもとの資本主義経済であるとすれば、それは同じ歴史の過程のくりかへしであつて、まったく意味をなさないといはざるをえません。

資本主義経済機構は、それ自體のうち、人間が人間を支配するところの、階級対立といふ根本的な矛盾をふくんでをり、この矛盾は、資本主義の發展とともに、しだいに擴大されていつて、一方の極に富の蓄積他方の極に貧困の蓄積をひきおこしこの対立が一定の限點に達すると、資本主義制度は、そのもとで開花繁榮したところの生産様式の桎梏と化し、やがては收奪者の收奪によつて未來の社會にその席をゆづらなければならぬ運命にあるとマルクスは説いてゐます。

マルクスの資本論

マルクスの資本論は、この資本主義社會に固有な資本の運動法則を科學的に追究して、この經濟のからくりを精密に解剖するとともに、その内部にひそむ矛盾を指摘して、それに代つて登場すべき未來の社會について明確な指針をあててゐます。敗戦日本の眞に平和的な再建をこころざすひとびとにとつて、この書物は好むと好まざるとにかゝらず一度は讀まなければならぬものであると信じます。しかしながらこの書物は數千頁にわたる龐大なものであつて、しかもその内容は、はなはだ難解な文章によつて書きしるされてゐるのですから、これを一讀するといつてもなかなか容易なわざではありません。わたくしはいまから十六年前まへに、一讀したことがありますがそのときには、朝から晩まで讀みつゞけて、まる一年半かゝつたことをおぼえてゐます。それはもちろん、わたくしの語學力の貧弱さにもよりますが、たとひ日本の譯本についてよむにしても、半讀は充分かゝるであらうと思はれます。生産や勤務にしろがしい勤勞者やサラリーマン諸氏にとつて、これはかなりな重荷です。したがつてこゝでは資本論のあらましを、つとめてわかりやすく解説してみようとおもひま

す。この解説が少しなりとも資本論をよむひとの手引きとなり、日本民主主義文化の向上に寄與しうれば幸ひです。

商品とはなににか

この敗戦下のさしせまつた現狀のもとにおいて、いまさら「商品とはなににか」とたずねたらおそらく諸君はなんだ、いまだきばかな質問はよせといはれるにちがひない。

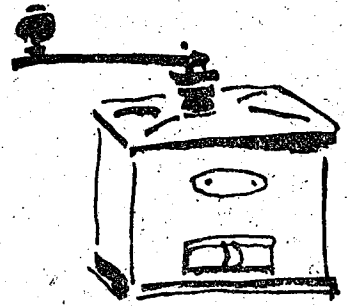
ところがこの商品といふやつがなか／＼曲者なのです。マルクスはのべてゐます。商品はちよつとみたところ、わかりきつた、なんの變哲もないしる物だとかんがへられてゐるしかしこれを分析してみるとなかなかどうして、それは形而上學的な類環と神學的な偏屈性にみちみちた極めて不思議な化物である。たとへば帆は自分の使用に供せられるかぎり、室内にじつと鑼止してゐる。しかるにそれがひとたび商品となるやいなや、脚で床のうへに立ちあがり他の一切の商品にたいして頭で逆立ちしてみせる。そしてそれがひとり踊りだす場合よりもはるかに不思議な幻想を、その木の頭からくりひろげてみせると。どうです諸君、この意味がわかりですか。おわかりにならないければそれでよろしいですまたいますぐわからうといふのが無理なのです。といふのは、いまなほ

世界の一流の經濟學者が、商品にまつはるこの謎のやうな性質が解けず、いろ／＼とまちがつた見解を吐露してゐるのですから。

ところで資本主義社會の富は、この麗阿不思議な商品の、おそろしく龐大な集りから成り立ち、一つ一つの商品は、富の元素形態となつてゐるのです。

あの奇空市場にならんでゐる數々の商品は、新聞生活とともに、たちまちその魔術性を發揮して闇のなかへ姿をけしりましたが、そのうち統制の枠がゆるんだら、監視の目がゆるむと、またぞろ白晝の街頭にみづからの魂ばかりでなく肉體までも賣物にしようとおひかはらず皮肉な顔をならべることです。日本敗れりといへ、まだ／＼富の量は龐大です。そして個々の商品はその元素であり細胞であるわけです。

人間の肉體は幾千百萬の細胞によつて有機的に構成された一つも大きな細胞體であるといはれてゐますが社會の富も、その細胞たる幾百萬種の商品の一大集團であつて、人體の生理學もその研究の出発點を細胞の分析にもとめると同様、社會の生理學たる經濟學も、商品の分析をもつてその研究をはじめなければなりません。では今回はこれくらゐにしてこのつぎの講座から商品の分析に着手しませう。(續く)



# 日本農村改革問答

安堂流瀾

時 昭和二十一年三月中旬  
所 ある農科大學の教室  
人 農政學の教授A博士  
農學部學生達

(B・C・D・E)

A 「やあ諸君、愈々卒業ですね」  
B・C・D 「先生、けふは最後の御講義ですから、何か僕達に有益な實際問題をお願ひします」  
A 「さうだね。ちや何か話さう。だが私が自分の好きな事を喋々とやるよりも、何か君たち自身の質問に應答する方が面白いな」  
B 「それぢや早速質問いたしますが、今度二月一日から實施された農地調整法に就いて先生の御感想を……」  
A 「あゝ農地法だね。さうだ、中

中劃期的な法律だが、諸君も知つてゐるやうに、まだまだ不徹底でない。例へば今度マ司令部から再下令があつたやうに、地主の保有面積が高すぎて、あれでは日本中の小作の浮べるものが幾らもない点、それから耕作權が確立されてゐない爲に、農地法の實施をめぐつて、不耕作地主連が俄か作りの耕作地主に化けるとか、血縁のものを引張りこんで兼業農家を拵へあげるとかする、その爲に今までの小作人から小作地をあべこべに取上げるといふ問題が各地で頻發してゐるね。」  
C 「農地の價格も問題があるやうですね」  
A 「さうだ、農地の價格を土地の生産力とは無關係に決める傾向が多いからだね。それから農地法に

反對する譯ぢやないが、小作が自作になるといふ点、これも個人的に謂つても、國家的に考へても、農村の民主化といふ事以外には、さう大きな意味はないやうに思ふね。」  
D 「先生、それはどうしてですか」  
A 「さうだね、個人的にはだ、小作が自作になつてもさう有難くない土地も尠くないだね。と謂ふのは、東北地方のやうな、極く舊大な土地、例へば一村の山林田野を悉く一人の地主が持つてゐるやうな所ぢや、村民が悉く小作なんだが、さういふ小作人は日常生活の瑣事をはじめ、人生すべての問題について、祖先から代々地主と一種の大家族のやうな關係で結合してゐるから、いまさら冷害の多い田地を我物にしてもらへても、

それを結局は維持が出来ない、その末路は小作へ轉落するならいゝ方で、とんだ負債で子や孫まで苦しめねばならぬかも知れんといふ譯だ。また山陰や北陸地方其他にも多いやうに、永小作權をもつてゐる百姓から謂へば、田地はわが物にならずとも、實際には田地の寶貨。質入の權利が地主よりは小作人そのものに在る所では、田地をわが物にして貰つたばかりに、今まで負擔しなかつた地租其他の税金を累加負擔する事になつて、却つて苦しむといふ有難迷惑なものもあるんだよ。これと謂ふのも、日本の農村と一口に謂へば何處も同じだらう位に考へてゐる所から來るんだね」  
B 「では、國家的にはどうなんですか」  
A 「國家的にはだね、小作を、自作に切替へるといふ事は、たゞ單に土地の所有權の移動に過ぎないから、食糧増産といふ点では殆ど意味がないんだ」  
C 「でも、先生、自作になつて強切つてゐる百姓も多いやうですが土地に對する愛着が湧いて、自然に増産する事になるのではありませんか」

A 「さう、ソリヤ多少さう謂ふ事

もある、情勢が精農になり、精農が更に篤農になるといふ点でね。

だが、それは食糧問題に對する解決といふ点からは、殆ど問題にならないよ。第一、日本の農地の地力はこの處局限にまで達して、疲憊してゐるからね。そこへ肥料が不足、農法が百年一日の如しといふ譯で、一寸打開が相當困難だ」

D 「先生、それぢや、やはり開拓が難局の鍵ですね」

A 「うん、さうだね、開拓も一つの方向だ。食糧の輸入も一つの手だが、外國依存ばかりぢや希望がないといふものだ。それに見返り物資の一つの生絲と謂つても、すつかり田畑に切替へた桑畑の復活も、なかなか容易ぢやないし、桑を作つたところで、桑畑一段歩の收益が馬鈴薯畑一段歩のそれに比べて、餘り零細だから農家の振向かぬといふのが實狀だ。馬鈴薯は、君たち作物學で勉強したやうに肥料確保さへ出来れば、甘藷なんか問題にならぬ高收穫作物だからね。さうさう、あれを地方で二度いもだの五升いもだのと謂つてゐるぢやないか。毛二作が可能な薯一株から五升も採れる薯といふ意

味だ」

C 「開拓と謂つても、それだけの餘地がありますか、先生」

A 「さうだね、まだ充分あるよ。政府の五ヶ年計劃で、百五十萬町歩開拓といふのがそれだ。まづ、日本の食糧問題解決のキーポイントに二つの観点があると思ふが、この開拓といふ事がその一つだ。處でこの開拓だが、軍用地の開拓湖、沼、潟、海などの干拓、寒地高地の開發などが主なるものだがいまの様な秩序のない遣り口では必ず失敗するよ。失業人口の問題などよく眺みあはせて、國家民生の生命がけの事業としてやらねばいけないな。處が、例へば干拓事業などいふと、八割とか何割とかの政府の補助金めあてに、何らの科學的な計劃も頭もない事業屋や素人などが、琵琶湖や肥前五島其他に現れて居るといふ始末だ日本の干拓史には幾百人と知れぬ先驅者の失敗と成功とがあるんだよ。けふはその話に深入りは出来んが、例へば小さな灣などを干拓する場合、何でも彼でも灣口を堰いて、あとは排水をすればよいといふものぢやない。それには充分な排水装置が必要なのは無論だが

第一に近隣に水成岩を切出す處が

なくおやならん。これは灣口を堰く石材にするんだが、これを遠方から運んでゐたんぢや間にあはんし、採算がとれないといふ理由の一つにもなる。といふ譯でなかなか難しい。水田ぢやないが、塩田などでも昔から干拓が困難を極めた爲に、瀬戸内海の沿岸を放すのと、よく潮どめ様なんていふ詞が祀つてあるね。昔から日本の土木事業には人柱がつきものでね。潮どめ様なんかよく家の娘を埋めたなどいふ話が多い。こりや脱線したが、とにかく開拓、干拓とも難しいものだよ」

B 「では先生、食糧問題解決のキーポイントのもう一つといふのはどういふ事ですか」

A 「あゝそれはだ。積極、消極二面の方策があると思ふ。これは農村だけが對象ではなく、我國全体の問題でもあるんだが、まづ農村問題としてみるとだね、農民の榮養改革といふ事が、まづその消極面として取上げられるんだ。山村の農家でけ随分ひどい食物、いまなら代用食と謂へさうなもの、例へば稗や苦草などを食べてゐるところも、以前私が嶺山漁村の調査

旅行をやつた頃はあつたが、平野の農村では近來は特に貧澤になつたね。人間てものは變なもんだ、配給米だ還元米だといふ事になると、今まで相當に粗衣粗食に甘んじてゐた貧農階級でも、とにかく白米を當食にせねばならんといふ家が多くなつた。話は少し歴史の方へ入るがね、日本の農民と云ふよりも日本人はだ。昔から白米ばかり食べてゐたんぢやないよ。豊原瑞穂の國なんて謂ふのは、水邊の昔の繁茂した沼津地の多い大昔の自然地理的景觀を表した詞なんだが、それはとにかく、白米は日本人の當食ぢやなかつたんだ。白米は神祭其他の晴の食事に用ゐたんだよ。稗や粟、蕎麥、小豆、麥なんて雜穀類の混食が普通だつたんだ。古事記の神話を傳承した稗田氏の苗字なんかで判る通り、稲田ばかりが田ぢや無かつた。水田が今日みるやうに廣汎に開發されたのは近世封建制度になつてからだよ。士農工商なんて謂つて、武士階級の次に百姓を据ゑた重農政策の賜だ。東北地方などの水田などには二百年そこ／＼の歴史しか持たぬのがうんとあるんだ。それぢや、さういふ水田の少い時代の



主食生産は何かと謂ふと、山地開發といふよりも、山林を惜しげもなく焼き拂つた跡地へ、蕎麥・稗・粟・黍・小豆・大根なんていふものを蒔いた所謂粗放農業だつたんだね。つまり焼畑農法だ。今日ちや鳥といふ字も畑といふ字も、さほど區別なしに使つてゐるが、實際は區別がある。即ちだ、畑の方がこの焼畑といふ奴だ。火田と書くだらう。火田といへば朝鮮の火田農法を聯想するだらうが、日本の焼畑だつて、農業文化史から謂へば朝鮮の火田と同じ類型で、まづ亞細亞的古代農法といへるだらう古いもんだね、焼畑つてのは。それから鳥といふ字の方は普通の焼かない方をさすのは、恐らく焼鳥以後の發生だ。だから長門の山村などへゆくと、ハタと謂へば焼畑をしか意味しない土地もあるよとにかく、斯うした焼畑農法に行きづまると共に、低地が長い時間の裡に自然に干拓されて、水田と化した譯だ。日本農業の考古學的研究から謂ふと、大和の唐古その他遺跡から、土器の底面に稻の籾殻などの壓痕の見えるものが出土してゐるし、また稻籾そのものを納めた壺も發掘されて居るとい

ふ次第だから、水稻の歴史も相當に古いよ。所謂原史時代の彌生式土器以前からあつたものかも知れないね。石器時代の事になると、問題がやゝもすると推測以上に出ない事もあつて、判然とはしないが、とにかく水田の歴史は焼畑よりも古い氣遣ひはないが、相當に古い。この水田稻作が農業立地の狹隘から、標高で謂へば約六百米から七百米位の高地にまで擴充されたのが今日の狀態だ。つまり耐寒種の稻が育成された結果で、焼畑を逆に追ひあげた形だ。……やあ、大分話が外れたね。話を少し戻して白米だが、とにかく雜穀の混食とか、蕎麥や圍子をたべるといふのが昔からの農民の食事だ。白米は饗の食物ではなく、晴の食物だつた。酒も今日のやうに、と謂つても今は配給だが、戦前のやうにいつといふ見さかひなしに鯨飲するといふのは比較的新しい風習で、以前は白米をくひ、酒をのむといふ日は、一年に何時と何時といふ風に決つてゐた。年中行事といふのがその目で、この他に所謂冠婚葬祭など臨時のさうした日があつたわけだ。それが崩れて近世の白米や酒の濫用時代を現出

した譯で、今の配給制度はやゝ復古した形だ。處でこの鯨飲馬食何も農家に限つた事ではないが、日本人の食生活の非科學性の代名詞だと思ふが、この点から農民の食餌營養の改革を是非やらねば駄目なんだね」

B・C・D 「賛成、賛成」

A 「君たちも何か意見があるかあな」

E 「大いにあります。例へば雪國の農家などは、冬は殆ど藁仕事位しかないのに、やはり一日五合も六合も保有米を配給されるのは不合理だと思ひます。工場の重労働者の仕事にはよつほど農民以上のカロリーを必要とするのがあります」

A 「なるほど、大いに同感だね。

太平洋側とか、西南日本などの比較的溫暖で、冬も農作に汗をする農村と、冬籠りをする農村とでは保有米に差があつてもいい譯だ。いやそればかりぢやない。例の白米を食はなかつた農民が保有米といふものをくふばかりか、それ以外に多量の雜穀、屑米類を保有してゐて、中々豊富極まる食生活をしてゐるらしいね。これも問題で雜穀、屑米などを攝取する事に依つて残した保有米を高く賣りつけ

るといふ性質の悪い農民も出て居るといふ話だ」

D 「先生、さつきの營養改革の問題はどうなんでしょうか」

A 「さうさう、農民の食餌營養の改革問題は、日本人全体のそれでもあるんだが、特に農民は臍腹くふといふ悪い習慣がついてゐる。つまり食物の質の問題は眠つておいて、量ばかりを追求する。保有米の量の決定もこの点から検討を要する譯だが、大体日本人の成人男子の平均体重は五三斤で二一〇〇カロリーを必要とし、女は平均体重四八斤で一八〇〇カロリーを必要とするといふのが、營養學上の常識だ。この食物のうち一番問題なのは蛋白質で、われわれはどうしても一日八〇瓦の蛋白質を攝らねばならず、而もそのうち二〇瓦は動物性の蛋白質でなければならんさうだ。處が戦前でも動物性蛋白質として鳥獸肉から求められる量はせいぜい一日一人當り二一三五で、残りの一七一八瓦は魚類に求めねばならん。何故、米や豆などの蛋白質が攝れるのに、動物性のものを求めるかといふと、人間もやはりホモ・サピエンスといふ生物學上の動物である以上、

その体質を形作つてゐる蛋白質と植物性のそれとは成分が大分ちがふ。そこで是非とも動物性の蛋白質を飼育する必要があるといふ譯だが、これには魚が一番手つとり早い。魚さへ賤く、多量に攝取出来れば必ずしも鳥獸肉はなくてもよい。

感ずる今日ちや都鄙ともに魚の頭も隊に海目にかゝれぬといふ現状だが、農村は、世の中全体が斯うなる以前から、困窮といふか何といふか、魚類などを嗜らないのが全圖的である。これにも歴史がある。大体、農家でも富裕な階級は食物の良悪を問題にして、魚が一日に一度でも食膳に上るやうな家は、食へものが良いとされ、孝公人仲間ばかりか、村全体の噂の種にもなるのだが、多くは悪い方の部類である。孝公人や作男の逃げ出すのは、仕事が苛酷であるか食物が悪いかの何れかに相場は決つてゐるが、ことほど左様に魚は日常には愛用されないといふのが農家の食生活の實際である。だから鯉の煮干を西日本でイリゴ、東京などでゴマメなど謂ふね、あれなども信州や美濃などの山村に入るとこれを田作りと謂つてゐる。つまり田植どきの晴の食事に生魚

が得られぬ僻地では、この煮干をなまぐさもとして食膳に添へるからの名稱なんだね。大体が我國ちや晴の食事、つまり凶事以外の祝儀の食事に生ぐさ物を用ゐるのな一つの鐵則でね、魚がなければ鯉節でもいゝから使はねば、それが凶事の食事、つまり精進料理に

なるんだ。だから食事ばかりではなく、贈答品でもだ、凶事のそれならいざ知らず、それ以外の場合には、生ぐさの以外の物を贈答するには鯉斗を使ふね、あれがつまり生ぐさものを添へたことになつて、これは凶事の贈物ではありませんといふ事を相手に示す表徴なんだ。だから凶禮ではないのにこの鯉斗のつかない物を他人に贈るのは極めて失敬なんだ。のしつてのは知つてるだらうね、つまり鮠を薄く殺いで伸ばしたからのしといふんだ。それを昔はよく結んで用ひたんだが、その形をまねて筆でかく風習が生れ、而も形が簡單になり、更にそれがのしを結んだ形といふ事が忘れられるやうになつて、あのいもといふ文字をかくやうになつたんだ。いもといふ假名を草書で續け書きにすると、なるほどさういふのし鮠を結んだ

形になるよ。だから本當はこのいもにしたつて、印刷したのしの繪にしたつて、意味は生ぐさでも、實物が鮠を使つてゐないから、精進の贈物になつてゐるんだが、そこは風習といふ約束でね。やあ、また脱線したね、とにかく晴の場合以外には魚類を攝取しない事を農民は意に介しない。だが米や野菜ばかりからは、よしや味噌・豆類によつて植物性蛋白質を攝つても、カロリーが足らぬ。そこで益益米を多く食つて、体力を補はうとする。その結果、馬食となり、胃擴張民族となり、何時も腹を一杯に満しておかぬと物足らぬといふ事になる。以前、私が紀州の山村を旅行した時に驚いたが、あの邊では中國地方などのやうに、茶粥といふものを克く食べてゐる。そこですぐお腹がすくから、日に七度も食事をするといふ食習慣があつた。しかし、普通の農村でもある地方の例をあげると、夏の忙しい時などの事だが、茶の子といふ朝食前の軽い食事——とは謂へ今の都會人の半日分位にあたる食事を始めとして、アサ・ヨツ茶・ピル・ユヅメシ・パンメシといふ風に一日に六度位の食事をすると農村は

さらにある。少くも四食は普通であらうと思ふ。一寸考へさせられるぢやないか。蛋白質を合理的に攝取せたら、こんなになくてもよからうにね」

「羨えなア、先生そりや本當ですか」

A 「本當だよ。全く羨しいね。少し農具に對して本氣で榮養改革をやつて貰つて、米をうんと食ひ出してもらふんだね。それは君たちの任務だ。大いに頑張つてくれ給へ。處でね、魚の問題に限らず肥料・農具其他農村の必需物資農村教育の問題にしてもだ、國家がもつと科學的な頭腦で、総合的に而も實踐的に處理して呉れなくちや解決しないよ。そこで漁業に依存する榮養改革から一歩進めて高地、寒地に於ける牧畜經營の強化をやつたらどうかと思ふんだがね。實はこれが私の食糧問題解決のキトポイントの第二の方策の積極面といふ奴なんだ」

B 「先生、北歐農業と同じ方向ですね」

A 「さうだ。日本の農業と緯度にはお構ひなしに農作物ばかりで押してゆかうとするのはよくない。例へば歐羅巴のステーキ、デン

マークのやうに寒い土地の農業のゆき方があるんだね。尤もデンマークのはたゞ寒いからといふのではなく、南米その他の寒い農産物と太刀打ちが出来なくなつて、畜産農業へ轉向したのだが、とにかくあの手を日本の高地、寒地でやるんだね。若し出来れば河川の流域などでもいい。尤も東北地方でも中國地方の山村、日本周辺の諸島嶼などでも牧畜は相當やつてはゐるんだよ。處がこれは多くは農耕馬や農牛だ。食用としての、酪農法としてのものは極めて少い。その点はやはり北海道だね。だがその北海道でも十勝・根室・釧路などの大きな平野を旅行してみると幾らも利用されてゐないし、本州でも九州高原・信州高原・富士山麓も其他甚だ利用が進んで居ない。むやみに高地・寒地を掘りかへして冷害に悩むよりは、むしろ寒い畜産飼料を滿洲あたりに仰いで、牧畜を広く強化して、動物質の栄養源の自給から進んで大陸其他への輸出にまで進展させる方がよい。それにはデンマークなどに範をと

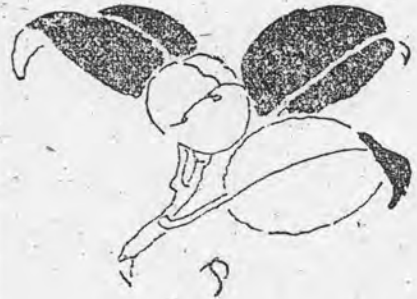
つて、農民教育を根本から樹て直す事が必要だ。今の青年學校なんか、随分つまらぬ教育の仕方をしてゐるが、農村の學校は國民學校からして、全体が農村向きに改編して了ふんだ。農村の青年學校もその点からデンマークの國民高等學校と酪農學校とを併せたやうな方向へ、思ひきつてむけてゆく必要があると思んだがね。かういふ方面から改革して、農業改革を農民自身のものにさせなくちや、なか／＼農地法の設置位ちや割切れないよ。農村の電化だの何だの色もあるが、やはり教育からだね。農民史などもつとやさしく村の青年子女がのみこんでゐる位にならなくちや、農村の自覺は道遠しといふものだ。あ、もうベルが鳴つたね。ちや、けふはこれ位で失禮しよう。諸君、農村社會の實地を足で歩いて、もつとよく認るやうに努めたまへ。ちや失敬」

B.C.D.E. 「先生、有難うございました」

## 梅

鈴鹿野風呂

梅咲くや勸學院のおもて庭  
月ヶ瀬や野雪隠にも梅の影  
春半ば過ぎて梅咲く宇陀の道  
梅咲いて門構なき大藁家  
あつき茶を呑むだけに足り梅の茶屋  
梅の村百戸ばかりの藁家がち  
梅林に白雲影を落し去る  
梅咲くや埴生の宿の静けさに  
梅白し嵯峨には多き大藁家  
遠くより散り來る梅に新割れる  
溪川のせゝらぎそめて梅白し  
梅咲いてくむことしげき筒井筒  
梅の宿三百年の墨藏す  
裏戸開け梅ふくらみに驚ける  
梅林も中の流も日にきらら



# 寒太郎日記 (1)

尾山城太郎

## 筆者の言葉

これは架空に構想された小説でもなければ、戀愛や冒險を主題としたロマンでもない。主人公寒太郎の過剰する平凡な人生と、その周邊に去來する社會の模相を断片的にとらへて、かねの理と行動のうつつかはりを、紙のうへにうつしたにすぎない。

寒太郎は、生まれればかりである。時は明治の末年。ユースは主として大正時代。處は東日本の城下町。家庭は一小市民の家。周邊には封建的な因習と無智な教育と、迷信的、宗教的雰圍氣が殘存してゐる。

元來、内氣で感傷者の寒太郎、しがし一兩案外心機が強いところもあるが、四圍の環境に適應しつつ、しかも無意識のうちに因習と迷信と偶像を破壊して、多くの友だちと一しよに、かれの人生軌道をすすんでゆく。

星は流れさつてあとをとどめない。一見流れ星に似たかれの若き日の淡い記録をここににつづる。

## ★うろおぼえ

寒太郎のうまれたのは、裏日本のある城下町の南のはしにちかい高台で、土地のひとびとが鶴坂とよんでゐるゆるやかな傾斜の低部にあつた寒太郎のお祖父さんはこの町の藩の士族といつても足輕くらゐの輕輩だつたらしい。なんでも會津征伐のときに北陸道を親不知附近まで攻めぼつたところで戦争がすんでしまつたとかいふはなしを寒太郎はうろおぼえにきいてゐる。

お祖父さんはそののち御維新とともに扶持をはなれて紙問屋をひらき市中を二、三轉居したのち、寒太郎の生家をそのころの相場で百圓あまりで買入れ、それ以來そこに定住することになつたのださうである。そ

のころの百圓がいまの貨幣價値になほしていくらになるかはしらないがとにかく開口五間、奥行十間くらゐの二階家で、中央に一尺四方のけやきの大黒柱があり、ひろりのうへに高さ五尺くらゐの大きな自在釣がぶらさがつてゐた。もとは酒の醸造元の家だつたとか。とにかく裏には土蔵もあり、庭には築山もあつて、家のつくりとしてはこの高台でも五、六位とは下るまいとはお祖母さんの自慢話に寒太郎はよくきかされたものだ。

寒太郎の記憶にのこつてゐるお祖父さんの顔は、あから顔の、しかも眼のくぼんだ、まあちよつと鼻だけひくい天狗面といつたやうな感じ。寒太郎の物ごころのつくところにはもう老齡のために、冬は奥の六疊の間

の炬燵にあたたまつて、持病のぜんそくに咽喉をぜいぜいひはせながら寝こんでゐたやうにおもふ。祖父ゆづりとみえて、寒太郎の顔もひろい顔にくぼんだくるくる眼が特徴で、雪の高田にはこの下に家ありといふ立札がたつけれども、お前の顔にはこの中に眼ありといふ看板をかけたけりやなどと、寒太郎は友だちからよくからかはれたものだ。

寒太郎のお祖母さんは、やせた顔つきで、ひくい鼻の先に老眼鏡をかけ、相手の顔をみるとときにはじろりとにらむくせがあつた。氣象はなかなか男まさりで、いつも帳場のまへにまがつた腰をすえ、長きせるでたばこをスパスバやりながら、田舎から和紙を賣りにくる農民を相手に値段のかけひきをやつてゐた。

若いころの父の顔は幼年時代の寒太郎の記憶にはのこつてゐない。といふのは、寒太郎のうまれたころから父は商賣上の意見の對立から祖父母とけんくわし、やけ氣味も手つだつて米相場と放蕩に身をもちくづしとうとう勘當されて、おなじ町の中ではあるが、かなり遠いところの妾宅に別居してゐたからである。

おとなしい寒太郎の母はこのためどんなにか心をいためたことであら

う。寒太郎の物ごころのつくごころには、母は心臓病のため、顔や足にうきがきて、手桶をもつにもくるしそろうにしてゐた。藩の御用の鳥羽屋の娘といはれ、十六でお嫁にきたごころには、きれいだと近所の評判になつた寒太郎の母も、里の没落と家庭のいさこさですつかり風貌が變つてしまつたらしく、末つ子で男一人の寒太郎は、すむぶんの母にあまへてぞだつた。いくつまで母の乳をのんでゐたかは記憶にないが、あるとき飲みあきて乳首を歯でうんとかんだら、母が飛びあがつたのを寒太郎は、おぼえてゐる。

★いたづらざかり

寒太郎には九つちがひの姉があつた。氣象はお祖母さんに似てなかなか勝氣であつた。この勝氣な姉も幼年時代の寒太郎のやんちゃには相當手をやいたらしい。ある日姉が寒太郎ををんぶして町の錢湯にゆこうとしたとき、どうした勤機かしらないが、背中の寒太郎が急にすねて火のついたやうに泣きだし、錢湯の方へゆこうとすればイヤーンといつて竿立ちになり、では家へ歸ろうといへばイヤーンといつてあばれだし、いくらなだめても始末にをへず、その

うちをんぶの手で姉の首をしめたため呼吸ができなくなり、坂の中途でとうとう一しよに泣きだして、ゆきすりの人に助けられてやつと家にもどつたそうだ。實際このとき姉はよほどくるしかつたらしく、後年寒太郎の幼年時代のおもひでばなしがでるたびに寒太郎はくりかへしくりかへし姉からこの顛末をきかされた。

寒太郎の家から三軒目のとなりに豆腐屋があつた。なんでもこの豆腐屋のおかみさんは加持祈禱をやるといふ評であつた。病人が御祈禱をたのみにゆくときには饅頭を菓箱につめてもつてゆかねばならない。そして御祈りがはじまる段になると、このおかみさんは髪をふり亂してその饅頭をすつかり平けやがて失神状態になつて、うは言のやうに身體に巣くう病魔のありかをつけ、おはらひをするのだそうだ。そんなはなしをきいて寒太郎は子供ごころに大へんこわいおばさんとおもつてゐた。しかしその店先は一寸した砂地になつてゐたので寒太郎たちのよいあそび場になつてゐた。寒太郎は近所の子供たちと一しよにそこで積木や砂いぢりをしてあそんで。

ある日むかひ隣りの早雪ちゃんといふ女の子がこの店へ油揚げを買ひ

にきた。寒太郎はこの子に、ちよつと喰べさせてねといつて小指の先ほど片隅をちぎつてもらつた。それを奥の方でちつとにらんでゐた御祈禱のこわいおばさんが、油揚げを寒太郎がみんなとりあげて喰べてしまつたといつて、寒太郎のお祖母さんに告げ口した。サア大變。お祖母さんはカンカンをおこつて寒太郎を家の佛壇のまへにつれてゆき、泣きさけお寒太郎を母におさへつけさせておいて、首すぢにいくつも熱いお灸をすえた。糊解してもきき入れず、お灸がすんでからお祖母さんは寒太郎を土蔵のなかへほうりこんで、外から重い扉をしめてしまつた。

この土蔵の二階には天狗さんの護符のはいつた箱が天井につるされてゐるといふので、幼年の寒太郎には土蔵のなかが無性にこわかつた。大ごえをあげてワーン、ワーン泣きたてたが、外にはさつぱり反應がない寒太郎は小一時間ばかり泣いて泣きつかれて、やがてなみだも水ばなも乾いて出なくなつて、いつのまにか床のうへにねむりこんでしまつた夕方になつて母がそつと扉をあけてはいつてきて、また急に泣きだそうとする寒太郎をじつと抱きしめてくれた。

お灸と土蔵の檻禁は、寒太郎のいたづらをこらすときにお祖母さんの用ひる常とう手段であつた。寒太郎の姉も幼いころこれにするぶん惱まされたらしく、その後お嫁にいつてからもときどきそのことをおもひだして、えり首にのこつたお灸のあとを母や寒太郎にみせ、うちのお祖母さんはほんとにひどいことをするのとやつたと、うらみごとをのべてゐた。

こうしたお灸の威嚇も土蔵の檻禁も、寒太郎には二、三日しか效能がなかつた。寒太郎はつきからつきに腕白ぶりを發揮して近所から苦情を申しこまれ、その都度お祖母さんから光榮あるお灸の洗禮をうけた。

★そのころ

寒太郎が七つになつたとき、いつも奥の間で咳ばかりしてゐたお祖父さんがなくなつた。ある日便所にはいつてしばらくすると、ワーンといふことともにドタリといふ音がしたので皆がかけつけると、もう卒中で倒れたまま口がきけなくなり、すぐに奥の居間にうつしたが、その日の夕方に息をひきとつたのである。葬式の日には親戚が大ぜいあつまつたのと、御馳走がたくさんあるのと



それになによりも白いめづらしい着物をさせられたので、すつかりうれしくなつた寒太郎は、「御萬歳とは有難かりけれ」と、うろたへえの三河萬才を踊りだしたので、出棺をまへにみんな笑ひだすやら、かへつて涙ぐむやらなかなか大さわぎであつた。

寒太郎は切いところ、佛壇のまへで、毎晩お祖母さんの膝に抱かれて、お經のよみごえを子守唄のやうにきいた。お祖父さんの亡くなつたころには、お祖母さんの横に坐つてお經の唱和をさせられた。お經の本文がはつて、なむあみだぶつを何回も何回もくりかへすところへくると急にねむくなり、正面の阿彌陀如來の像も燈明の輪光もぼーつとかすんで、いつのまにか祖母の膝にもたれて極梁の夢路をたどつた。祖父は死んだけれども、男まさりの祖母がゐたので商賣の方はなかなかさかんであつた。近在の和紙生産地を背景とし、取引は隣縣から遠く山陰にまでおよんだ。毎晩のやうに驛から弓張をつけた荷馬車が、寒太郎の家のまへに到着し、その貨物は祖母と母と一人の奉公人の手で取引先へ賣りさばかれていつた。

そのころの燈火はランプで、夜二

階で寒太郎が母や姉と一しよに寝るときは行燈であつた。町の交通機關は角笛を吹く馬車で、子供たちはガタ馬車のピボピボとさげびながらそのうしろについて走つた。錢湯にはそのころはじめてガス燈がつきだした。妙に青白いひかりを發するガス燈のまはり大きな蛾がくるひまはつてゐた。夕方のランプのほやみがきは子供たちの日課であつた。この城下町に電燈と電車がついたのでよほどあとのことである。はじめて電車がついたので、親戚の安さんが運轉手になつたので、寒太郎は高台の終點から驛前まで、ただで往復二回のもつた。三回目になつたらなんだか目がまひそうと、とうとうおろしてもらつたことをおぼへてゐる。蓄音機がはじめてこの町へ輸入されたときも大へんな評判であつた。機械がものをいふといふので、わざわざ遠くの洋品店まで寒太郎はそれをききにいつた。

要するに西歐の機械文明の波が、とほく印度洋や太平洋をこえて、日本の封建都市にひたひたとおしよせてきたのである。小規模ながら日本にも産業革命がおこり、紙の機械生産もはじまりかけてゐた。それとともに手すきの和紙の販路も次第に

せはめられ、寒太郎の家運もしだいに衰運にむかふことになつたのである。

第一次世界大戦で日本が後ればせながらドイツに宣戦を布告し、青島が陥落したときにもこの城下町は大へんなにぎはひであつた。町全體の仁輪加行列がでるといふので、寒太郎は家紋のついた店の法被と、鯉のぼりの鈴につけてあつた紅白のだんざら帯で奴さんの姿に紛せられ、奉公人に手をひかれて赤い提灯をふりながら、城下町を一周した。

### ★カタクキン

寒太郎もいよいよ小學校へゆくときがきた。母の仕立てた新しい紺がすりの着物に小倉の袴をはいて、片かなで名前をかけた黄いろい草履袋をさげ、姉に手をひかれながら山曳町の校門をくぐつた。校門には緩り方にあるやうに赤い桃の花がさいてゐた。

寒太郎の受持ちは、Sといふ三十分ぐらゐのしつかりした女の先生であつた。この女の先生はとてもよい人であつたが、組のなかで誰かが授業中オシッコをすると、それをたしなめるのに、袴のなかへ手を入れてオシッコの元をつねるのには、寒太郎

も子供ごころにちよつとおどろかさされた。この女先生が體格検査で目方をはかつてゐるとき、寒太郎のからだをながめて、坊やはカタクキンだねといつた。寒太郎ははづかしくて眞赤になつた。そしてこの言葉が妙に氣にかかり、そのうち中學時代に、誰かの隨筆のなかで、歩行運動の生理的都合上、男子の六、七割までは多かれ少かれカタクキンであるといふ名文にであふまで、寒太郎は自分がかたししたら片輪ではなからうかといふ淡い不安を解消することができなかつた。

この女先生はまた、朝遅刻してくる者があると、その子を教壇の机の下に立たせて、一時間中平氣で授業をつづけてゐた。くるくして机の下でうごくと、先生はうごいた頭を平手でピンヤリとなぐるのである。このころいつも遅刻したのは孤兒園からかよふ健ちゃんであつた。先生の机の下でギリシヤ神話の地球を擔ふ男のやうに、もともとぞ苦しんでゐた健ちゃんも、いまごろどこで、どんな人生の重荷を背負つてゐることやら。

S先生はそれから大ぶあつて、日光の某宮司のところへお嫁にゆかれ



新

風

第一回

大庭さち子

静かな家

大阪の空襲がまだ本格的でなかつた一昨年の夏に、叔母が疎開した家は、阪急被爆線の能勢口で電車を下りて、三四丁東に行つたところだとその當時叔母のたよりにあつた。

山瀬啓介はポケットから番地を書いた紙片をとり出して、暫く郵便局の赤いポストの前にたゝすんでゐたそこから東へはいる道には、静かな住宅が立ち並んでゐて、コンクリートの壁にそうて、きれいな溝が流れてゐる。底の小石のすき通るやうな清さが、啓介の充血した眼に、すがすがしくしみ通つた。

暖のないおだやかな朝だつたが、空はどんよりと曇つて、生あたいかい空気がみちてゐる。電信柱に立候補者の名を書いたビラが、でか〜

とほられて、そこだけ何となくあわたしい氣配であつたが、しかし郊外もこゝまでくると、何もかもがどこかで深閑としてゐる。戦争も空襲も、それはどこの世界にあつたことかといつた衝の表情は、今の彼には何かなじめない冷たさであつた。

道を行く人々の顔にも、敗戦の暗さはなかつた。といつて、勿論明るいわけではない。何か物忘れしたやうなひびりした表情でゐながら、河かにせきたてられてゐるやうないらだ〜しさ——この一見矛盾した心理のかけが入り交りながら、少しもそれに氣づいてゐないやうな顔付きが、彼には物悲しい氣持をそ〜つた。學校に通ふ生徒達も、オフィスに

情を細かに觀察することが出来たとはいへる。

こんなところにぼんやり考へこんでゐるんぢやなかつた——氣がついて啓介はポストの傍に下ろした軍用箱をかつき上げた。

溝にそうて東の方へと歩き出したが、そこは昨日今日に生活の根を下ろしたやうな家々ではなく、いはゞどつじりと住み古した邸宅ばかりが並びつゝいてゐて、叔母の一人住居と見えるやうな家はみつからなかつた。

「町會聯合會事務所」と木札のかかつた家をやつと曲り角にみつくて啓介はそのガラス戸を押した。デスクの前に、女事務員が一人椅子にかけて、ぼんやりと往來を眺めてゐる。

「一寸おたづねいたしますが、Xの四十七番地といふのはどのへんでせうか？」

「あゝ、Xの四十七番地でございますか。すぐこの裏なんですけれどお初めてはおわかりにくいかもしれませぬわ」

この角を曲つて眞すぐ行つて一つの辻を右に折れてと、いひながら彼女はデスクの上からメモの紙片を一枚ぬきとつてそれに鉛筆で略圖を書いてくれたが、それでもまだ不安らしく、外まで出てきて指でさし示してくれた。

啓介は幾度も頭を下げた。内地へ歸つてきて初めて示された親切であつた。こんな些細な人の情けにも、復員者の胸は熱くなる。地獄のやうに混雑する乗物の中では、人間はおしこまれた紙屑のやうであつた。切符一枚買ふにも、重い荷物を持つてゐる身には、容易なことでなかつたのに、小銭をもつてゐないといふので、切符賣の女は、啓介を冷酷に扱つた。だがさういふ取扱ひには、すでに戦地にゐる時からなれてゐた啓介である。

だから思ひがけないあたゝかさになふれると、戸まどつてしまふのだがそれでゐる無意識の内に涙のにじみ出てくる心理には、われながら愛情にかつてゐるいぢらしさがあつた。

教へられたところは、宏壯な邸宅と邸宅にはさまれた袋小路の一角であつた。同じやうな小さな家がマツチ箱を並べたやうに並んでゐて、競争中に建てたらしい安手な建築ではあつたが、棟割ではなく平家の一戸建であつた。

表の格子戸に、不似合な程立派な木札に、叔母のお家流の達筆で、山瀬啓介と彼自身の表札が出てゐた。その下に小さく安田ふみと自分の名を書いて出してゐる。そのつゝまさに、叔母が啓介の留守中にも、この家における自分の地位をわきまへて控へ目に住んでゐる氣持がはつきりとあらはれてゐた。

「只今歸りました」

勢よく聲をかけて、どさりと土間に柵をおくと

「あ、啓さんでしたか。お歸りなさい」

叔母のふみゑが玄關の障子をあけて、兩手をついて迎へてくれた。

「今日か明日かとお待ちしてゐました」

相變らずきめの細かい清潔な顔である。

感情の動きの殆んど見られない冷

靜さも、やはりこの叔母のものであつた。彼が學校へ行つてゐた頃も、卒業して研究室へ通ひ出してからも彼が歸つてくる毎に、彼を迎へる叔母と少しも變つてはゐない。

敗戦の宣告を異郷にうけ、心身共に疲れはて、やつと辿りついたわが家に、迎へてくれた肉親の言葉から感動のひびきをきき得なかつたことは、啓介にはやはり一抹の淋しさとも物足りなさを感じさせずにはおかなかつた。

硬直したやうに、無理矢理感情の波をしづめてこゝまで通して来たわが家の格子戸をのけた瞬間に、どつと溢れてきた氣持を、どう抑へようもなかつただけに、歸るなり冷たい堅い壁につきあつた思ひがした。

死ぬまで娘のやうに華美で、よろこびにも、悲しみにも大げさだつた母のおもかげが、ふつと心をかすめた。

だがこの叔母にそれを求めることは無理であらう。叔母の人生は、結婚を境として、不幸と悲劇の連続であつた。氣の弱い女だつたら、自殺もしかねない程、それは深い痛手であつたが、叔母は自殺する代りに、苦悶の救ひを宗教に求めて、カトリ

ック教に歸依したのである。その日から叔母の人生觀はかはつてしまつた。よろこびも、悲しみも、一切の現世的な哀歡は、たゞすぎゆく風のやうにはかないものとなつた。魂の世界だけに生きてゐるやうな叔母である。

叔母は啓介の柵を玄關に上げると「狭い家で啓さんにはお氣の毒ですけれど、何處にも家がなくてね」

「いや、結構ですよ。留守中に被災しながら、歸る家を作つておいて頂いただけでも、幸福すぎますよ。叔母さんの御苦勞を感謝します」

實感だつた。歸つてみたら、家は丸焼け、家族は行方知らず、行き場もなく途法にくれた戦友の悲惨な境遇をまのあたり着て来た身には、これは言葉だけの感謝ではない。叔母の冷靜さを淋しく思ふのは我儘勝手な贅澤だと反省させるものがあつた。

「いゝえ、苦勞なんて——啓さんに比べれば、ものゝ數ではありませんでした。さあ、お疲れでせう。早くさつぱりと着がへをなさい」  
二疊の玄關の横が四疊半の茶の間奥が六疊の座敷で、合せて三間の家である。

叔母について六疊の座敷に通つた啓介は、一寸の間隙の上につゝたつ

たまゝで身動きも出来ない氣持であつた。

床の間に佛壇がすゑであるといふだけで、机、本箱、洋服ダンス、電氣蓄音機から、その他さまざまとした調度類が、全部後の出征前と一分一厘の置場所もかへないで配置されてゐた。隣間四年の歲月がとばされて、彼は戦地から歸つてきたといふことと、こゝが市内の生家ではないといふことも、忘れてしまひさうだつた。その上きれいな叔母の手に、朝夕ふきこまれたとみえて、塵一つかゝつてはゐなかつた。何よりもすらりと背文字を並べた愛藏の本の背表紙をながめた時、啓介の感激はきはまつたといへる。

叔母がどんな思ひで、こゝまで運び、そしてどんな思ひで、朝夕愛情してくれだかと思ふと、痛み易い若者の胸には、叔母の愛情に泣きたい程の感謝の思ひが湧き上つてきた。

啓介は叔母のしてくれるまゝに、汗と塵にまみれた服をぬいで、シャツ、ズボン下と洗ひたての肌衣をつけ父の着古しを仕立て直したらしい大鳥の袴に對の羽織を肩にかけた。

臺所へ下りて、思ひ切り水道の水を出し贅澤に石鹸を使つて、顔と手を洗ふと、身も心もやつと家郷に歸

つた人の安らかさがもてた。  
その間に叔母は佛壇に燈明をあげてゐた。

「さ、お父様、お母様に御挨拶をなさい」

と、いはれて、彼はきちんと坐つて父母の位牌に手を合せた。

中學一年の時に母を、それから大學三年の時、卒業を前にして父を失ひ、それからつと父の妹であつたふみゑ叔母の世話になつてきたが、何かことある度に、叔母から位牌の前に坐らされるのが苦痛でならなかつた。改まつて無信仰をいひたてるのではなかつたが、科學に志す啓介にとつては、宗教といふものをおつて必要としたことがなかつた。両親は常に自分の心の中に、記憶となつて住んでゐるだけで充分だと思つてゐるので、單に木の札に戒名をほりつけたものに、合掌するといふことは、かへつて両親を冒瀆するものだと思はれた。

だが今の拜禮には何かちがつたものがあつた。この戦争によつてうけた國の運命も知らずに逝つた父母に對する子の物悲しい感慨は、戦場での數々の経験が生々しく胸に疼いてゐるたせであらうか。歸つたばかりで、方向の定まらない混迷した心の

何かに歸趨を求めようとする氣の弱さであらうか。

父は生前紡績工場を経営してゐたしかしいはゆる實業家ではなく、技術家肌のじみな性格で紡績機械の改良と改善にその一生をかけたといつてもよかつた。たとへばリングで錘にまきとられた糸が、織部へ来て、經糸を織機にかける時、一本々々茂に通さなければならなかつたのを、新しい機械を發明して何千本の箆通しを一瞬の内になすやうにしたことや、佐業中女工員達が、もう／＼たる綿麻を浴びることが、彼女等の健康を害することを變へて、吸塵装置を完成したことなど、紡績に關する限り、父の貢献は大きかつた。しかし片方で工場經營をつゞけながら、こつ／＼と技術の道を進んでゆくことの困難さを、彼は息子にまで強しようとはしなかつた。啓介が恐ろしくはこれも父の血をひく勞働科學の研究を志して、地道な學者の道に進むことに心から賛成してくれた。だがそれも子はその目的を告げたゞけで彼が心血を注いだ卒業論文さへ眼を通すことが出来ず、しかも戦争は、父から紡績機械を奪つて航空工業への轉換を餘儀なくされたさなかに死んでしまつた。

敗戦後の日本再建は、紡績工業の復興に待たねばならない重大な使命をになつてゐることを思ふと、肉親としての父ををしむだけではあき足りないものが、ぼつ／＼としてわき上つてくるのである。

英國のランカンヤをしのご、一時日本の紡績工業は世界制覇をめざして着々と先進國を迫ひぬいて行つたそして目的通りその製品は廣汎な販圖を開拓したが、それがもたらす繁榮は國民の全般的な生活を少しも高めることにならず、少數の資本家を肥らせるにすぎなかつた現實を、父は常に慨嘆してゐた。その意味で、父は紡績工業に従事する自分の立場に、たえず矛盾と苦悶を感じてゐたらしい。この矛盾と苦悶に始終追ひかけられてゐたのは、形はちがつても、やはり戰場における啓介の心境であつた。

單に記憶の中に住む父のおもかげにだけ満足出来たいものが、啓介の心にあつたに芽生え切めた。一つの形骸にすぎない一基の位牌を拜む子の感傷には、一口にいへない複雑なものがあつたのだ。

「御無事にお歸りで、おめでたうございます」

拜禮がすむと、叔母は改まつて啓介の前に兩手をついた。

「叔母さんも御無事で——長々と御苦勞さまでした」

彼も平凡に同じやうな口上を返した。溢れる程の感慨といふものは、結局こんな平凡な表現しか出来ないのである。人に甘えることも、人から甘えられることも許さない叔母ではあつたが、しかしそのコチ／＼にかたまつた一度下には常に思ひやりやさしさをたゞへてゐるのであるしかもその思ひやりは報酬を期待してゐなかつた。何事も神の思召にしたがつて、自らは十字架を背負つて行かうといふ求道者の心が叔母の心であらう。

啓介のために用意されたおそい朝の食卓について、彼は初めて叔母をしみ／＼とながめた。

「叔母さんは思つたより年をとつてゐませんか」

「さうですかねえ。でもたつた四年ちやありませんか。さう早くおばあさんになつてしまつたらや、あんなをお迎へするのに困ると思つて、氣をはつてゐたんですよ。ところで啓さんはます／＼お父様に似てきましたね。肩にも胸にも肉がついて、さつきもお佛壇の前に坐つたあんなを



見て、お父様のお若い時にそつくり  
 なんて、びつくりしましたよ。まあ  
 お腹がすいたでせう。お晝にはあつ  
 たい御飯をたいて御馳走しますか  
 らね」

昨晩は汽車の中で、固い乾パンを  
 嚙つたわけで、堪へ難い程空腹であ  
 るのに、久しぶりに茶碗にもられた  
 飯に、餘り食欲はなかつた。むしろ  
 香ばしく焙じた一杯の緑茶が、腸の  
 底にしみこむ程おいしかつた。

「向うできている所では、驛の  
 前には餓死者が折り重なつてゐるや  
 うな噂でしたが、別にそんな様子も  
 なささうですね。電車に乗つても道  
 を歩いてみても、今にも倒れさうな  
 程飢ゑた人も見あたらないやうでし  
 た。實は叔母さんも榮養失調にかゝ  
 つてるんじゃないかと案じてゐたん  
 ですがね」

「え、ありがたう。それや昔のや  
 うに充分とはゆきませんが」  
 叔母は淋しく笑つてから

「でも一人つてものは、割に氣樂  
 なものでしてね。それに信者仲間が  
 何かと私の一人住居を氣づかつてく  
 れましてね」

かつては苦悶の救ひであつた信仰  
 が、今は生活の救ひともなつたこと  
 を、叔母はつゝましく語つた。

もと／＼こゝへ疎開してきたのも

こゝが叔母の洗禮をうけた教會のあ  
 る街だつたからである。この家も信  
 者が見つけてくれたものだつたし、  
 おびたゞしい家財道具も教會の物置  
 に保管するやうにはからつてくれた  
 のも信者であつた。戦争中、キリス  
 ト教徒に加へられた壓迫は相當にき  
 びしく、教會に出入りすることを、

非國民のやうな眼で見られたものだ  
 つたが、それがかへつて彼等の結束  
 を肉親以上の愛情で固くし、あやふ  
 やな者をふるひおとして、殉教者の  
 やうな悲壯さで生き抜くことを教へ  
 てくれたとも、叔母は言葉少なに啓  
 介に語つた。

「そりやよかつたですね。それに  
 こゝいらは空襲も、うけなかつたし――」

「え、ですが一時はとても大變で  
 したよ。こゝいらの人達もどん／＼  
 田舎へ疎開しますし、飛行機は毎日  
 毎夜のやうにやつてきましたしね。  
 私も幾度かもつと奥の方へ逃げよう  
 かと考へないぢやなかつたんですが  
 ――」

だがそれは自分のいのちに對する  
 惜しさではみじんなかつた。一旦神  
 に捧げたいのちに何の愛着もない。  
 總てを大いなる神の御手に委ねて、

安心してゐられたのだが、留守をた  
 のんで征つた甥への責任感から、叔  
 母はさらに安住の地を求めたのであ  
 らう。はつきりさうとはいはないま  
 でも、啓介は當時の叔母の氣持を理  
 解することが出来る。神といふ言葉  
 を叔母は餘り使ふことを好まなかつ  
 た。

「市内のお家のあとは大變ですよ  
 何もかも灰になつてしまつて――」  
 「さうですねえ、僕もつくなりす  
 く行つてみました」

重い柵をかついだまゝ、啓介は腹  
 虚の上に杲然と立ちつくしてゐた今  
 朝方の自分の姿を回想した。

あらゆる一切のものが焼けてしま  
 つて、もう一年近い月日がたゝうど  
 いふのに、まだそのまゝに放置され  
 てゐた。市内といつても、やゝ郊外  
 に近いそのあたりには、めぼしいバ  
 ラックも建つてゐなかつた。周圍に  
 は開墾されて畠になり、みづ／＼し  
 い青菜ののびてゐるところもあつた  
 が、彼の家のあとは何一つ取片づい  
 てるなかつた。それでゐて立木一本  
 残つてゐない。たゞ一面の瓦礫であ  
 る。

叔母が郊外に安全に生きてゐてく  
 れるといふ安心がなかつたら、この  
 焼跡は深い傷心を與へたであらうが

その支へ故に、彼は割に平然として  
 居ることが出来た。今さら無業を職  
 争に對する憤りを感じてみる氣持も  
 なかつた。しかもその道を進駐軍の  
 ジープが勢よくかけて行つたのを見  
 た時、これだけの犠牲は當然だとう  
 なづくものがあつた。

#### 四

「それで啓さん、あんた美紀さ  
 んのお宅へはよつて下さいましたか  
 ？」  
 食卓を片づけながら、叔母がきい  
 た。

「いや、まだです」

「ぢやお疲れでせうが、出来るだ  
 け早く御挨拶に上つて下さいね。先  
 生にはいづれ學校の方でお逢ひにな  
 るでせうが、先づお宅へいらつしや  
 らないといけないと思ひますよ。美  
 紀さんにも、お母様にも随分お世話  
 になりましたからね」

「しかし先生の御一家は奈良の方  
 へ疎開なすつたんじゃないやなかつた  
 んですか？」

「え、そりや一時ですよ。あれか  
 ら幾月たつたでせう」

叔母が笑つたので、啓介も苦笑し  
 た。あれからといふのは、敗戦以來  
 といふ意味であらう。平和がかへつ  
 てきたのに、いつまで疎開してゐる

必要があらうか。しかも美紀の家は戦災にもあはなかつたし、借家でもなかつたのだ。

川邊美紀は啓介が指導をうけてる川邊博士の娘であつた。

應召をひかへての婚約を、啓介は幾度か辞退したが、たつてと望まれて、美紀との結婚を約束してしまつた。表面は啓介の學識を見込んで、

その愛娘を嫁がしたい博士の意思から出たやうであつたが、相當の遠慮があつて、しかも系累のない啓介の境涯は、婚期の娘をもつ親にとつては、願つてもない好條件であつた。

しかし研究一方で、世俗にうとい博士は、大してこんな條件に心動かされはしなかつたのであるが、夫人はそれに魅せられた。彼女の意思が、この婚約をとりきめさせたやうなものである。

かといつて、啓介は決して不服ではなかつた。父は好んだわけではなかつたが、生前の交際範囲は廣く、それが残された遺児をいつまでもとりまいて、學校を出るなり、多くの縁談が持ちこまれたが、啓介はそのどれにも気が進まず、美紀を選んだ。靜かで、じみな學者の家庭に生長した彼女の性格が、あくまで智識に生きようとする彼の生涯の伴侶とし

てふさはしいと信じられたからである。その上叔母とも調和してくれる女でなくてはならなかつた。不幸な父の妹を、彼は一生背負つてゆく覺悟である。

ところが歸つてきて、叔母からはれてやつと思ひ出すといふのは、呑氣さを誦りこして、少々不誠實であつたかもしれぬ。

美紀が度々戦地へよこしたたより、教養の高い、優雅な香りをこめたものであつた、自分を低くいやくすることによつて、やつと戦友との調和を保たねばならなかつたやうな状態であつた時に、このたよりが彼の魂を高め、慰めてくれた力は大きかつた。そこには火のやうな熱情は秘されてゐなかつたけれど、こんな湧き出る清水のやうに清冽なものがあつた。彼はそのたよりを讀む度に、出征前にむつと魂の底に沈めてきたペーターベンの第九シンフォニーをきくやうな氣持であつた。いはゞ美紀との愛情には、世俗的な儀禮から、歸るなりすぐにも挨拶に出向く義務を負はされてゐるといつたやうなものない安心した信頼感があつた。忘れてゐたのでなく、思ひ出す必要もないやうな愛情だといつたら、身勝手な解釋だと彼女は氣を悪くするだらうか。

「何もかも不如意の中ですけれど

でもそれをいひたてゝゐたら、きりがありませぬ。向うさまでは随分お待ちかねなんですから、早くお式をあげて、私も安心したいと思ひますよ」

叔母はさうもいつて、啓介の結婚式をもう胸に描く様子であつた。

だが啓介は結婚を急ぐ氣持にはなれなかつた。復讐したら、彼には何をあいても、逢ひに行かうと決心してゐる女があつた。彼女も美紀とは同じ年齢の娘である。だがこれは愛情では斷じてなかつた。

(四八頁より)

◇ 植付後の管理

胡瓜は瓜が成り出すと木の衰弱がひどく、肥料を施しても回復し難いので成り出す迄に充分施肥して、葉太く、葉の大きい強い木に仕上げておく。それには四—五日毎に三倍に稀めた下肥をかける。トマトはその反對で、早くに施肥しては徒に莖や葉が繁る許りで結果しない。

丁度南瓜と同じく、實をみてから施肥す可きである。茄子は時期も選ばず又肥料の過ぎる事もない。何れの場合も下肥でよいが濃いのは有害無益、必ず三倍以上に稀めねばならぬ。灌水も大切で、畑を白く乾かすやうでは満足な結果は得られぬ。早くなれば一日二回は灌水し、なほ葉や

莖を敷いて乾きを防ぐ。枝や莖も放任してはいけぬ。トマトは最初の主枝を真直に伸ばし、側芽は發生次第全部摘取る。之を放任すると落花する。

茄子は一番花の下位二枚を残し、以下の芽は全部摘みとる、その後枝は放任するが、葉は時々開引いて、果實に光線の當り易いやうにする。トマトは光線がなくとも温度だけで着色すが、茄子は光線なしには着色しない。

胡瓜は節成品種であれば、親蔓は支柱一杯迄伸ばし、子蔓は藤花の着いた先一葉を残して摘心する。飛成品種であれば親蔓を二尺で摘心し、三—五本の子蔓を伸ばし、之に發生する孫蔓を新同様取扱ふ。之は面倒だが收穫が増える。南瓜は親蔓を本葉五—六枚で摘心し、子蔓を四本伸ばす。孫蔓は發生次第摘除する。

◇ 果菜類の收量は

以上、一通り果菜の作り方を述べたが、さてどの位の收穫があらう。胡瓜は六月上旬から一株に二〇本、茄子は六月中旬からとれ一株に四〇—五〇個、トマトは七月上旬から着色き、一株に一五—二〇個、南瓜は一番晩く七月下旬以降で一株に二—六個位。以上は上々の豊作であるが、之を目標に我家の野菜目給を計らう。

(タキイ長岡研究農場技師)

# 家庭園藝

## 果菜類の作り方

伊藤庄次郎

### ◇家庭園向きの果菜

瓜や果實をとる野菜を、一般に果菜と云ふ。きうり、なす、トイガラシのやうに、物菜に重寶なものから眞夏の永菓子として最上の西瓜や甜瓜、又その營養を讀えられるトマト奈良漬として有名な越瓜、干瓢をつくる扁蒲、甘味くて腹の膨くれる南瓜等何れも果菜であり、丁度今から作り始める。

素人の家庭園では、第に作り易いこと、次に場所の割合に収量の多いことが大切である。そこで初歩の人達には、なすにトマトがよく、多少、手馴れた人達ならば、之に胡瓜を加へやう。日當りのよい垣根等には南瓜を匂はせるのもよく、幸ひ畑に餘裕があれば西瓜も作らう。

### ◇果菜類の植付は何時頃

春、漸く深く、霜の心配がなくなれば、愈々果菜の植付時期となる。寒さに最も強いのはトマトで、次が胡瓜に南瓜で、茄子、西瓜、越瓜は

寒がり、相當暖かになつてから植出さぬと失敗する。氣温で云へばトマトが一五——一六度、茄子等が二〇度を限界とみてよい。

西瓜や越瓜は、直接畑へ蒔いてもさして變らぬが、胡瓜、茄子、トマト、南瓜等は苗を買ふのが上策で、暖かになつてから畑へ蒔いてゐたのでは、收獲がひどく晚れる。

一体に、節間ひが短く、莖の太いがつちりした苗がよい。

### ◇果菜類の植付はこんな

畑は三月頃から準備しておくがよい。つまり植えるところへ溝を切り或は一株毎の植穴を掘つて、之に二回程下肥をかけ、土をよく肥やしておく。由植付前に一株に——二握り位の木灰を撒き、鉄でよく打ち混ぜる。之に植付けるのである。

茄子にトイガラシは畦巾三尺に株間二尺、胡瓜にトマトは三尺に一尺五寸、南瓜に西瓜は六尺に三尺位が適當で、何れによらず狭過ぎては收量が擧らない。

さて、苗は根鉢を壊さぬやう、その上部が幾分露出する位に、極く浅く植付け、株元へ土を寄せかけるにと、め、押しつけてはいけない。次で直ぐ假りの支柱をたて、結びつけタツブリと灌水する。

### ◇植付當時の心得

植付當時、大事なものは地温の保持と、降霜である。苗の潤れをなほし

元氣な生長を始めさせるには、何よりも地温が大切である。それには太陽熱を有効に利用する。浅く植へるのもそのためで、深植へでは根の暖まりが少い。又朝晩は相當冷へるので、可愛がる氣持から植へるとすぐ堆肥や塵芥で根元を覆ふ事があるが之も深植と同じで、太陽熱の吸收を妨げ、結果は悪い。畦を狭くし或は山高形に植へるのも同じ考へによる更に當時の灌水は午前中がよく、その量もやゝ少く夕方には乾く程度がよい。

今は降霜である。快晴無風で冷込みのひどい夜はその怖れが多い。早朝、霜の解ける迄に、如露で流し去る之大抵助かる。胡瓜は殊に弱いから是非實行したい。(以下四七頁へ)

## 編輯後記

苦しい中にもどうにか編輯を終えた。より内容を充實し、日本の大方向を定めるべき雑誌にまで持つて行きたいのであるがわれ一同の考へがあるが色々の事情に制約せられて思ふやうに紙面がいかにないのは微力を愧づるとともに御支援をいただく各位に宛に申謝がない。

今號から「資本論人民講座」「寒太郎日記」及び長編小説「新風」を連載することになった。資本論の人民講座は難解とせられる資本論の本質を興味ある筆致で説明するもので期待していただきたいと思ふ。

**日本輿論** 第二巻第五號  
毎月一回一日發行  
昭和二十一年四月二十日印刷  
昭和二十一年五月一日發行

編輯兼 柏原勉  
發行人 柏原勉

金澤市中町二四番地  
印刷人 吉田次作

金澤市中町二四番地  
印刷所 吉田印刷所

金澤市武藏ヶ辻田守ビル  
發行所 輿論社

振替金庫 二六三番  
會員番號 A-26001

東京本社 東京都大森區田園調布二ノ六九一

京都支社 京都市下鴨松竹湯影所内  
鬼形三郎

九州支社 小倉市貴船堤町 長瀬 一男

中國支社 廣島縣賀茂郡竹原町 新庄谷盛造

北海道支社 札幌市南一、東四 紺野正三郎

配給元 日本出版配給株式會社

### ▽廣告

本誌に廣告掲載御希望の方は東京本社または左記へ御申下さい。

金澤市武藏ヶ辻田守ビル

輿論社

文藝映畫復興の輿論に應へて、文壇のキリン兒、石川達三が特に映畫のために書き卸した野心作！  
奔放な世界觀に情熱のペンは躍つて、彼は何を語らうとするか。  
文藝映畫に誇示する松竹の野心作。

本脚 齊藤良輔・出演 大庭秀雄  
松竹精銳演技陣・松竹映畫文藝作

目下撮影中  
五月完成豫定

# 人生畫帖

金久保通雄 共著  
嶋信正

## 聯合國の日本管理方策

附録 ボツダム宣言  
日本管理機構 竝に重要指令集

本書は聯合國の日本管理方策を詳述せる全國民必讀必携の書

## 輿論社調査部編

## 新政黨の性格・現勢

附・新代議士名鑑

〔本書の内容〕 新日本の建設を目指して活躍する進歩、自由、社會、共產、協同各政黨を初め大小百數十にも上る各黨各派の成立経緯から綱領、政策、主張、宣言、系統、性格、役員氏名及び創立年月日、黨財政、黨員數、本部所在地、電話番号等々新生政黨の現勢を一目瞭然たらしめる現代日本政治勢力の鳥瞰圖

東京都大森區田園調布二ノ六九一

發行所 輿論社

MIROSE SALVAGE CO., LTD.



# 重建日本の海運

船舶救難・解撤・海上輸送・漁業

## 廣瀨サベィヂ株式會社

取締役社長 廣瀨一夫

本社 大阪市西区九條南通二丁目二四番地

支社 東京・吳・佐世原・木之江・宇野・津田・尾鷲

昭和二十一年一月廿三日第三種郵便物認可  
昭和二十一年四月二十日印刷納本  
昭和二十一年五月一日發行

配給元 東京神田區區役所町二丁目九番地  
日本出版配給株式會社  
定價二圓五十錢